

日本語ユーザーマニュアル

ANALOG FACTORY | 2.5

32 ANALOG EXPERIENCE
THE FACTORY



プログラミング :

Robert Bocquier (version 2.x)
Nicolas Bronnec
Fabrice Bourgeois
Jean-Michel Blanchet
Christian De Jong

インダストリアライゼーション:

Frédéric Brun (Arturia)
Zhao Yitian (CME)

マニュアル :

Richard Phan
Jean-Michel Blanchet
Antoine Back
Franck Blaszczyk
Scott Stafiej (English version)
Houston Haynes (English version)
氏家 克典 (日本語)
坂上 暢 (日本語)
生方 則孝 (日本語)
笹野 健太- Dirigent Corp. (日本語 2.0)
福地 智也(日本語 2.5)

デザイン :

Yannick Bonnefoy (Beautifulscreen)
Elisa Noual
Morgan Perrier

© ARTURIA SA – 1999-2010 – All rights reserved.
4, Chemin de Malacher
38240 Meylan
FRANCE
<http://www.arturia.com>

このマニュアルに記載されている内容は、アトリアからの予告なしに変更することがあります。このマニュアルで述べられているソフトウェアは、ライセンス許諾または機密保持契約の元で提供されます。ソフトウェアのライセンス許諾は、その合法的な使用での期間と条件を明記しています。このマニュアル中の記事、文章を、アトリアの許可なしに、購入者の個人的使用も含むいかなる目的であっても、無断転載、記載することを禁じます。

マニュアル本文内に記載されているその他の商品、ロゴ、会社名は、各社の商標または登録商標です。

マニュアル中の記事、文章を、アトリアの許可なしに、購入者の個人的使用も含むいかなる目的であっても、無断転載、記載することを禁じます。

マニュアル本文内に記載されているその他の商品、ロゴ、会社名は、各社の商標または登録商標です。

ご注意



本製品のCD-ROMはオーディオ用ではありません。一般のオーディオCDプレーヤーでは絶対に再生しないでください。大音量によって耳を痛めたり、スピーカーを破損する恐れがあります。



本製品のCDROMには不正コピーを防止するためのプロテクトがかけられています。お客様が本製品のCDROM/ソフトウェアの複製を試みた結果生じた損害についてはアトリア社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- 本製品のCDROMを損傷したり、破損した場合、修復/交換は有償となりますのでご注意ください。
- 本製品および取扱説明書の著作権はすべてアトリア社が所有します。
- 本製品のCD-ROMを開封する前に、必ず「使用許諾契約書」をお読みください。CD-ROMを開封した時点で、使用許諾書に記載された事項をご承認いただいたこととなります。
- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、公演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音し、配布、販売、貸与、公演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。あなたが本製品を用いて他社の著作権を侵害しても、アトリア社ならびにアイデックス音楽総研株式会社は一切責任を負いません。
- 本製品を権利者の許諾無く賃貸業に使用することを禁じます。また無断複製することは法律で禁じられています。
- ディスクの裏面（信号面）に触れたり、傷を付いたりしないでください。データの読み出しがうまく行かないことがあります。ディスクの汚れは、市販のCD専用クリーナーでクリーニングしてください。
- 本製品は別途記載の条件を満たす標準的なコンピュータで動作を確認しておりますが、この条件下での動作すべてを保証するものではありません。同一条件下でもコンピュータ固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なることをご了承願います。

- 音楽をお楽しみになる場合は、ヘッドホンをするなどしてご近所に迷惑がかからないようにしましょう。特に夜間は音量に十分注意してください。

アナログ・ファクトリー 2.5”をお買い上げいただきまして、ありがとうございます

このマニュアルは 2 つの製品に関するものです。

- *Analog Factory 2.5* : 3500 ものシンセサイザー・サウンドをプレー、エディットが可能。
- *Analog Factory Experience* : Analog Factory 2.5 と専用のコントロール・キーボード

このパッケージには以下の内容物が同梱されています。

- MAC OSX と Windows 用のインストーラーCD-ROM
- シンクロソフトのアクティベーションコード、およびアートリア・オンラインの登録コードを含む、レジストレーション・カード (クレジット・カード状のもの)
- アナログファクトリー2.5 及びアナログファクトリーキーボード ユーザーマニュアル
- アナログファクトリー・キーボード (アナログファクトリーエクスペリエンスのみ)
- USBケーブル (アナログファクトリーエクスペリエンスのみ)

カードは慎重に保存下さい。

本ソフトウェアを使用するためにあなたは製品登録を行わなければなりません。登録することによって、あなたはご自分が正当な所有者であることを認識し、本製品の最新ニュースとアップデート情報を得ることが可能です。登録後、あなたは我々のサイトの保護エリアにアクセスするためのユーザーIDとパスワードを得られます。また、アップデートや新しい製品に関する情報を早く受け取れるように、我々のユーザー通知リストに掲載されます。

特記事項

MIDIキーボードはUSBまたは外付けACアダプターを使用します。その際、製品マニュアルに記載されている、アトリア推奨品以外は、決して使用しないで下さい。(チャプター5.2.2 に詳細がありますので参照して下さい)

警告：

本製品を人が歩く場所等に置かないで下さい。また、電源やUSB等のコード類を巻かないで下さい。

延長コードの使用はお勧め出来ません。どうしても使用しなければならない場合は、本製品を使用するのに、十分な電気容量を持つコードをご使用下さい。詳しくはお近くの電器店等にご相談下さい。

本製品に周辺機器等を使用する場合は、アトリア社が提供もしくは推奨するものをお使い下さい。それ以外のものをご使用になる場合、それぞれの製品に記されている、安全上の注意をよく読んでからお使い下さい。

仕様変更について：

本マニュアルに記載されているの内容は、本マニュアル印刷後であっても、予告なしに変更される場合があります、アトリア社は仕様変更の権利を有します。

重要：

感電、破損、火事あるいは他の危険からの大怪我や死に至る可能性を回避するために下にリストアップされている基礎的な注意事項に常に従ってください。

ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る可能性があります。長時間に及びそのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間音を聴かないこと。

難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けること。

注意：

知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対してのサポートは保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、ディーラーと相談してから、サポートを要求することをお勧めします。

事前注意事項は以下の通りです (但し、表記されていることに制限されるものではありません)

- 1) 取扱説明書を良く読んで、理解して下さい。
- 2) 楽器本体に表示されている指示に従って下さい。
- 3) 楽器や周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外して下さい。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用して下さい。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないで下さい。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないで下さい。
- 4) 楽器を浴室やキッチン、プールなど水気の多い湿った場所で使用しないで下さい。
- 5) 楽器を落下の危険性がある、不安定な場所に置かないで下さい。
- 6) 楽器の凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気の循環用のものです。また、楽器を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
- 7) 12V DC 1500MAのACアダプターのみをご使用下さい。
- 8) 居住地域の電源電圧が、ACアダプターの定格電圧と整合していることを確認して下さい。
- 9) 楽器の筐体を開けたり、異物を挿入したりしないで下さい。火災や感電の原因になります。
- 10) いかなる液体も楽器に吹き付けしないで下さい。
- 11) 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
- 12) 雷発生時には、楽器を使用しないで下さい。距離が離れていても感電の恐れがあります。
- 13) 楽器を直射日光に当てないでください。
- 14) ガス漏れが発生している場所付近で楽器を使用しないで下さい。
- 15) Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

CD-ROMの取り扱いについて：

ディスクの光る面 (データが収録されている面) に触れたり、傷つけないよう注意して下さい。傷ついたり、汚れたりしたCD-ROMは正しく読み込めなくなる場合があります。CD-ROMは綺麗な状態で保つために、市販のクリーナーなどを使用して下さい。

もくじ

1	イントロダクション	11
1.1	歴史	11
1.2	そして“アナログ・ファクトリー”が誕生しました	12
1.3	TAE® 技術により忠実なエミュレーションを実現	13
1.3.1	折り返しノイズのないオシレーター	13
1.3.2	アナログ・シンセサイザーがもつ波形のゆらぎを忠実に再現	14
1.3.3	アナログ・フィルターの忠実な再現	15
2	インストール	17
2.1	WINDOWSでのインストール (XP/VISTA/7)	17
2.2	MAC OS Xでのインストール	19
3	オーソライゼーション	21
4	アナログ・ファクトリー 2.5 を使用する	29
4.1	プリファレンス	29
4.2	ツール・バー	30
4.3	プリセット・マネージャー	31
4.3.1	Instrument (シンセサイザーの検索)	32
4.3.2	Type (楽器タイプの検索)	32
4.3.3	Characteristics (キャラクター別の検索)	33
4.3.4	Entries Found (検索結果)	34
4.3.5	Filter Options (フィルター・オプション)	34
4.3.6	プリセット音色の情報	35
4.3.7	構成	36
4.4	キーボード画面	37
4.4.1	仮想キーボード (鍵盤部分)	37
4.4.2	2つのホイール	37
4.4.3	フィルター	38
4.4.4	LFO	38
4.4.5	Key Parameters (キー・パラメーター)	39
4.4.6	FX MIX (エフェクト・ミックス)	39
4.4.7	ADSR faders	40
4.4.8	SNAPSHOT Buttons (スナップショット・ボタン)	41
4.4.9	MIDIコントロール	41

5	様々なモードでの使用方法	43
5.1	スタンドアローン・モードで使用する.....	43
5.1.1	アプリケーションを立ち上げる.....	43
5.1.2	初期設定の変更.....	43
5.2	VST™.....	45
5.2.1	インストール.....	45
5.2.2	VSTインストゥルメントとして使用する場合.....	45
5.3	AUDIO UNIT™ (MAC OSXのみ)	47
5.3.1	インストール.....	47
5.3.2	Logic Pro の場合.....	47
5.3.3	Digital Performer の場合.....	48
5.4	PRO TOOLS™.....	48
5.4.1	インストール.....	48
5.4.2	プラグインとしての利用.....	49
6	アナログ・ファクトリー・キーボード (ANALOG FACTORY EXPERIENCEのみ)	51
6.1	アナログ・ファクトリー・キーボード フロント・パネル概観.....	51
6.1.1	キーボード.....	52
6.1.2	シフトボタン.....	52
6.1.3	ロータリーエンコーダー.....	52
6.1.4	プリセット/オクターブ・ボタン.....	53
6.1.5	スナップショット/セーブ ボタン.....	53
6.2	2つのホイール.....	53
6.2.1	Pitch wheel.....	54
6.2.2	モジュレーション・ホイール.....	54
6.3	アフタータッチ.....	54
6.4	シンセシス・セクション.....	55
6.4.1	フィルター制御 ロータリーエンコーダー.....	55
6.4.2	LFO制御 ロータリーエンコーダー.....	55
6.4.3	キー・パラメーター ロータリーエンコーダー.....	55
6.4.4	エフェクト・ミックス・ロータリーエンコーダー.....	55
6.4.5	スライダー.....	55
6.5	アナログ・ファクトリー・キーボード リアパネルの概観.....	56
6.5.1	MIDI 接続について.....	56
6.5.2	パワーサプライ.....	57
6.6	アナログ・ファクトリー・キーボードの基本MIDI操作.....	57
7	MIDI インプリメンテーション	58

7.1	キーボードの使い方	58
7.2	MIDIとは?	58
7.3	MIDI インプリメンテーション・チャート	60
7.4	MIDIコントローラー・リスト	61
7.5	システム・エクスクルーシブ・メッセージ詳細	62
8	MIDI コントロールセンター (ANALOG FACTORY EXPERIENCEのみ)	63
8.1	MIDIコントロールセンターを起動する	63
8.2	MIDIセッティングを変更する	64
8.2.1	グローバルセッティング	64
8.2.2	個々のコントロールセッティング	64
8.2.3	キーボードにセッティングを保存する。	65
9	ご使用前に必ずお読みください。	66
9.1	アトリア “アナログ・ファクトリー” エンドユーザー使用許諾契約書	66
9.2	FCC INFORMATION (USA)	67
9.3	CANADA	68
9.4	EUROPE	68

1 イントロダクション

1.1 歴史

2001 年初頭、アトリアはアナログ回路のオーディオ解析をデジタル・エミュレーション技術で再現する先進的なアルゴリズム開発に着手しました。それは、技術的な言語を使用しなくても、かつて一世を風靡したモーグ・モジュラー型のようなシンセサイザーのユニークで無二なサウンドを再現できる前代未聞のものでした。そのアルゴリズムに着手してしばらく後、アトリアはその成果を世に問う準備を始めました。2002 年にカリフォルニアで開催されたNAMMショーにて、アトリアは後にボブ・モーグ博士からも絶賛をあげた「モーグ・モジュラー V」として商品化されるソフトウェア・シンセサイザーのプロトタイプを発表しました。

音楽制作において常に本物のサウンドを追求しているエキスパートたちは、自分の納得できるサウンドにはとても貪欲です。モーグ博士自らがお墨付きを与えた「モーグ・モジュラー V」は彼らから大絶賛をあげ、発売と同時に大成功をおさめ、様々な音楽誌にて賞を総なめし、ビンテージ・シンセサイザーの再現に関して先駆者的存在となったのです。

2004 年までの間に、アトリアには著名なミュージシャン、プロデューサー、バンドの方々から多くの電子メールが届きました。彼らの多くは自分が所有しているハードウェア・シンセサイザーをバーチャル(ソフトウェア)・シンセサイザーに置き換えることを計画していました。世界中のアーティスト連中がハードウェアよりもソフトウェアのアドバンテージに注目し始めたのです。

CS-80V」は、2003 年にニューヨークで開催されたAESショーにて発表されました。それは“究極のポリフォニック・シンセサイザー”として一斉を風靡したヤマハのCS-80 を完全に再現したものでした。キース・エマーソン、スティービー・ワンダーなどの憧れの著名音楽家が愛用した本物が、無限の可能性と共に「CS-80V」として蘇ったのです。

2004 年のNAMMショーでは、世界で最も有名なシンセサイザーと誰もが認めるミニモーグを完全再現した「ミニモーグ V」がデビューしました。70~80 年代、ミニモーグ・サウンドはあらゆる音楽シーンで大活躍しましたが、今日でもヒップホップなどで、大いにそのウォームでファットなサウンドがフィーチャーされています。

「アープ 2600V」は 2005 年のNAMMショーにて発表されました。ドラムンベースや映画スターウォーズのR2-D2 の音などで有名なアープ 2600 を忠実に再現したのです。さらに斬新なトラッキング・ジェネ

レーターやステップ・シーケンサーとの合体など、アトリアらしい商品の仕上げ方にミュージシャン、音楽業界より絶賛を浴びました。

2006年のNAMMショーにてアトリアは7番目の商品として「プロフェット V」を発表しました。世界一有名なアナログ・ポリフォニック・シンセサイザーとして君臨したプロフェット 5 と、ユニークなベクター合成方式とウェーブテーブル式デジタル・シンセサイザーの草分け的存在であったプロフェット VS という 2 台のシンセサイザーを合体させた強力なハイブリッド・ソフトシンセのアイデアは瞬く間に業界のエポックメイキングなトピックスとなりました。

2007年夏のNAMMショーにて、アトリアは「ジュピター 8 V」を発表しました。音色の可能性において、この製品はこれまでと異なる何かをアトリアのラインナップにもたらしめました。「ジュピター JP 8 V」は実に多彩な音作りの可能性を持っています。いわゆる「ファット」な音や「透明感」のある音を容易に創造出来ます。まさに洗練され、スマートなその外観通りに。

オリジナルの「ジュピター 8」のクオリティはエレクトロ・ポップミュージック・シーンはすぐ浸透しました。フランキー・ゴーズ。トゥ・ハリウッドの「リラックス」はこれを使用して制作されました。ヴィンス・クラーク、ジョン・フォックスおよびマーティン・ウェアらもこの楽器を使用しました。ここがジュピター 8 が確立するステータスの出発地点でした。

ジュピター 8 は以下のミュージシャン使用しました。

ハワード・ジョーンズ、タンジェリン・ドリーム、アンダーワールド、ジャン・ミッシェル・ジャール、ディバッシュ・モード、プリンス、ゲイリー・ライト、エイドリアン・リー、ヘヴン・セヴンティーン、喜多郎、エルビス・コストロ、ティアーズ・フォー・フィアーズ、ヒューイ・ルイス&ザ・ニューズ、ジャーニー、モーグ・クックブック、イエス、ディーヴォ、フレディ・フレッシュ、シンプル・マインズ、ヤン・ハマーetc.

1.2 そして“アナログ・ファクトリー”が誕生しました

“アナログ・ファクトリー”は上記のすべてのアナログ・シンセサイザーが、ベストな状態で入っています。しかも無駄の無いインターフェイスにより誰でも簡単に操作できます。画面をみてお分かりのように、「モーグ・モジュラー」による重厚なベース、「プロフェット 5」によるブラス、ストリングス、「アープ 2600」によるシンセパッドやサウンド・エフェクトなど、あなたが欲しいと思った楽器と音の種類をパレット上で簡単に検索できるのです。

もし、あなたが本物の楽器を演奏した経験や、そのシンセサイザーについての知識が無くても、“アナログ・ファクトリー”のパワフルな楽器たちの音を聞けば、その違いは一目瞭然でしょう。あなたの音楽の強力なエッセンスになることでしょう。

1.3 TAE® 技術により忠実なエミュレーションを実現

TAE®とは(True Analog Emulation) (トゥルー・アナログ・エミュレーション)の略で、アナログ機器をデジタルで再現するための技術です。

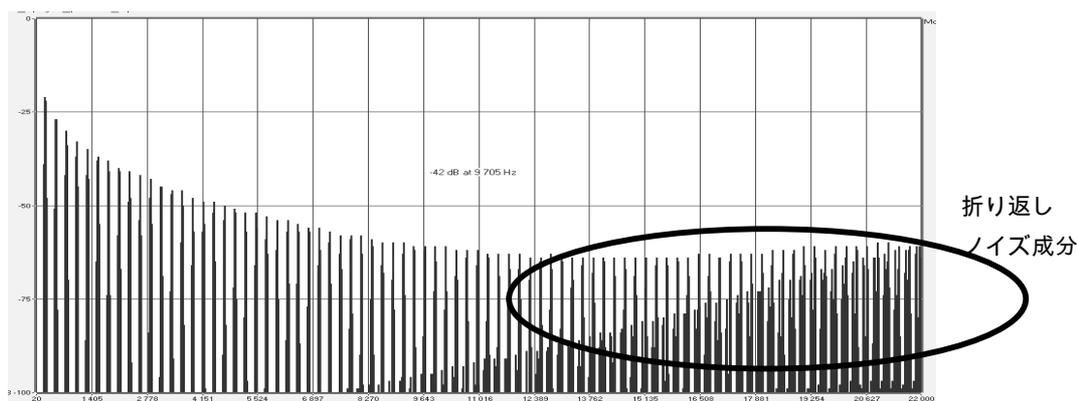
TAE®が持つアルゴリズムは、ソフトウェア上において、ハードウェアの持つスペック、特徴を忠実に再現することができます。そして、この技術こそプロフェット Vの音色クオリティーが他の追従を許さない決定的な理由であるといえます。

さらに詳しくTAE®を説明していきます。

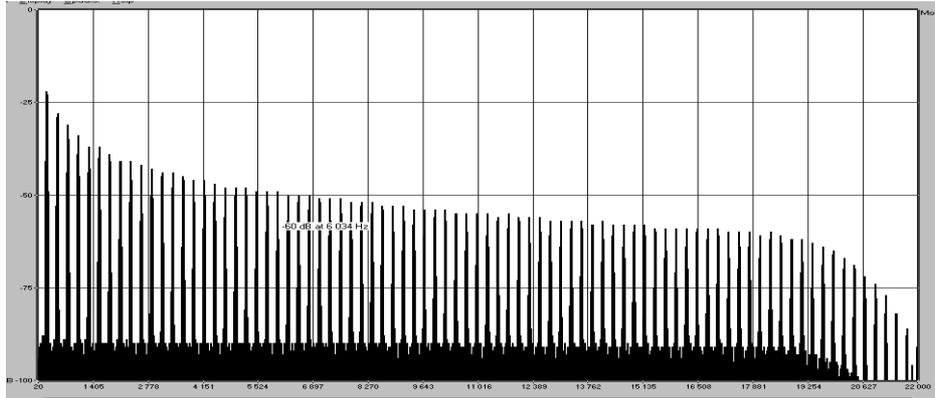
1.3.1 折り返しノイズのないオシレーター

標準的なデジタル・シンセサイザーは、高周波数帯域において折り返しノイズ成分を作り出します。パルスウィズ・モジュレーションやフリケンシー・モジュレーションを使用している場合についても同様です。

TAE®は、全ての処理(PWMやFMなど)において、折り返しノイズ成分のないオシレーター波形をCPUに余分な負担をかけることなく作り出すことが可能です。



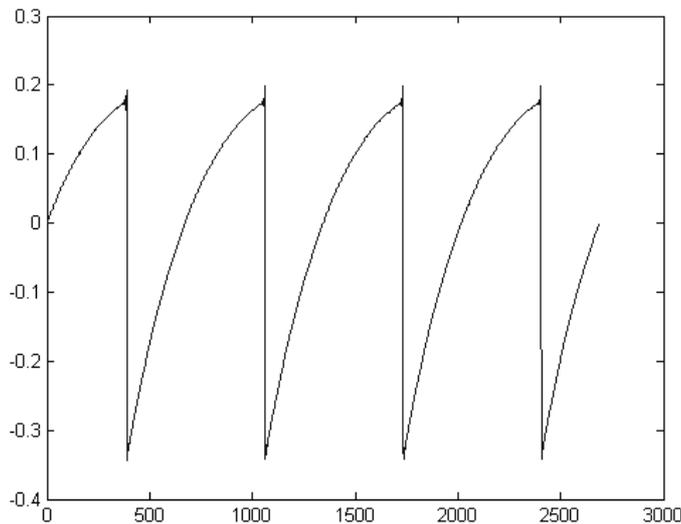
既製のソフトウェア・シンセサイザーの周波数スペクトラム



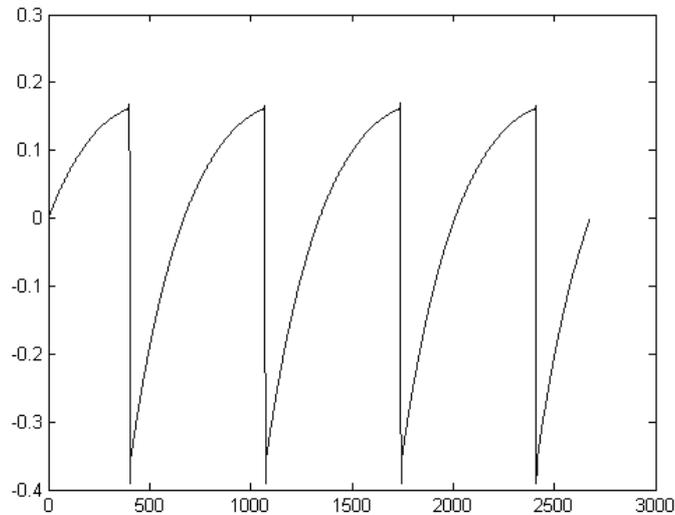
TAE[®]によって生成された“アナログ・ファクトリー”のオシレーターによる周波数スペクトラム

1.3.2 アナログ・シンセサイザーがもつ波形のゆらぎを忠実に再現

原型のアナログ・オシレーターは、コンデンサーの放電特性を使い、ノコギリ波、三角波、矩形波などの共通した波形を作り出します。これは、波形がわずかに曲がっているということを意味します。TAE[®]はコンデンサーの放電特性の再現を可能にしました。下図は5つのアトリアのビンテージ・エミュレーションソフトのオリジナルの波形分析図です。2つの波形はともに、ローパス、ハイパス・フィルターによってフィルタリングされた波形です。



オリジナル・ビンテージシンセサイザーの波形画像



TAE[®]技術による“アナログ・ファクトリー”の波形画像

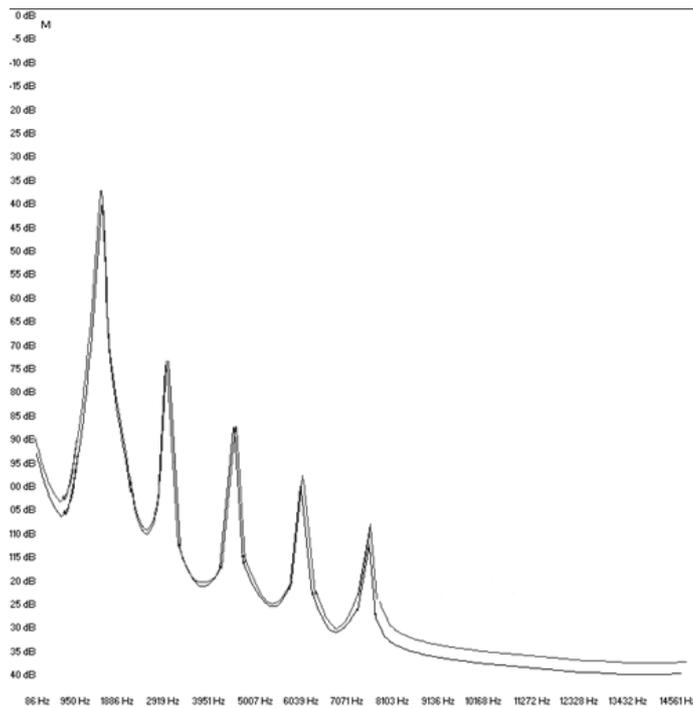
加えて、原型のアナログ・オシレーターは不安定であり、波形の形状が周期ごとに微妙に異なっています。

これは、温度や、その他の環境の状態によって左右されるアナログ・ハードウェアが持つ繊細な部分です。

TAE[®]は、このオシレーターの不安定な部分までも再現し、より暖かく、分厚い音色を作る出すことが可能です。

1.3.3 アナログ・フィルターの忠実な再現

TAE[®]は、アナログ・フィルターが持つ特徴を、どのデジタル・フィルターよりも忠実に再現します。TAE[®]技術は、オリジナルのフィルターの特徴を再現するアルゴリズムを使用することでアナログ・フィルターを忠実にエミュレートします。下図のカーブは、オリジナルのビンテージ・シンセサイザーと“アナログ・ファクトリー”のTAEによるフィルターの比較図です。



オリジナルと“アナログ・ファクトリー”の24dB ローパス・フィルターのレスポンス・カーブ

2 インストール

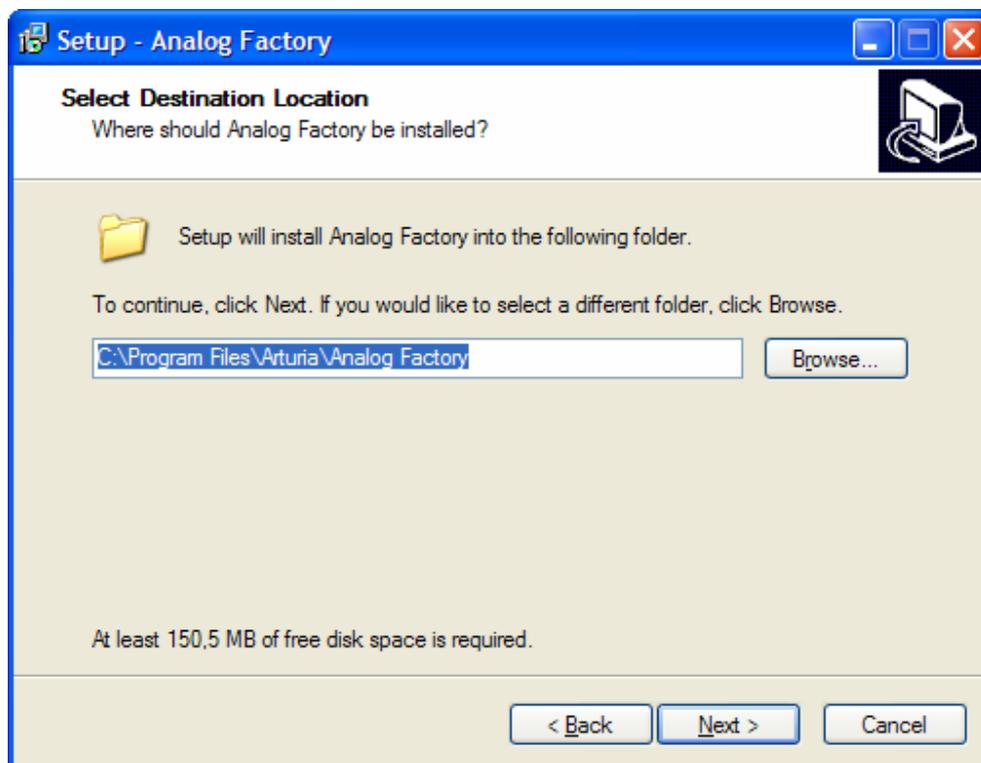
2.1 Windowsでのインストール (XP/VISTA/7)

CD-ROM をCD-ROM ドライブにセットしてください。エクスプローラーまたはマイコンピュータの中から「Analog Factory 2.5 Setup.exe」のアイコンを選択し、ダブルクリックしてください。

始めに「アナログ・ファクトリー 2.5」をどの階層にインストールするかを設定する画面が表示されます。

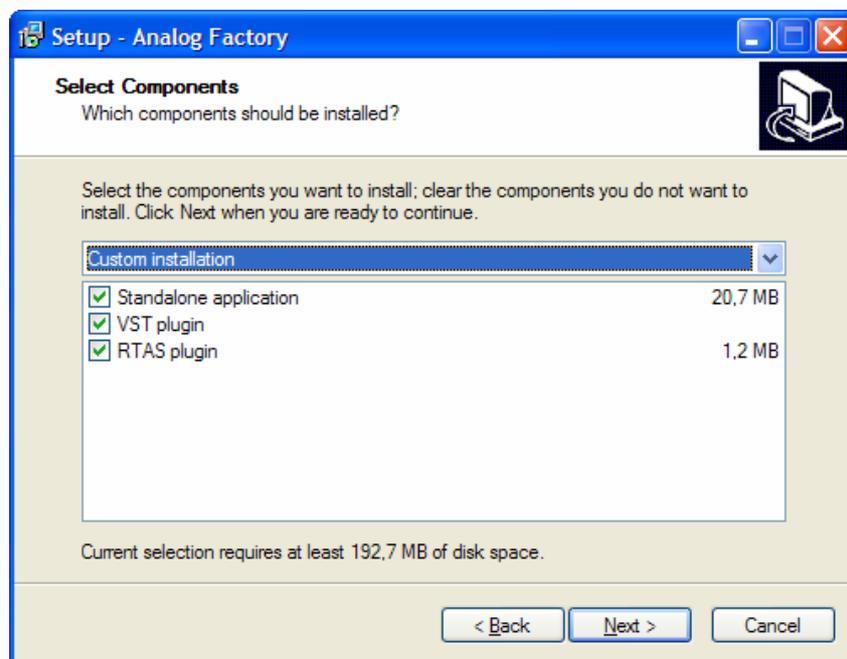
初期設定では「C:\Program Files\Arturia\Analog Factory 2.5」になっていますが、必要に応じて任意に変更することが可能です。

あなたが以前のアナログ・ファクトリーをすでにインストールしている場合、両方のバージョンをコンピュータ内に共存させることが可能です。以前のバージョンを使用して作られたソングは最初のバージョンが呼び出されます。



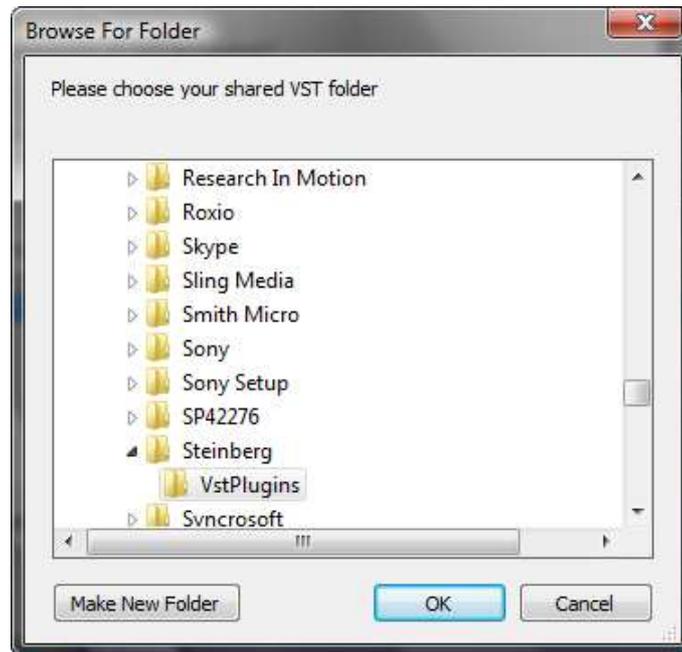
インストール・フォルダーの選択

これで、スタンドアロン版のアナログ・ファクトリー 2.5 のインストール準備ができました。次にプラグイン版のインストール画面が表示されますので、ここで使用するプラグインの種類を選択してください(VST, RTAS, AU)。



プロトコルの選択

VST と RTAS プロトコルでは、アナログ・ファクトリー 2.5 を使用するホスト・アプリケーションのフォルダーを選択する必要があります。これらの選択方法については 5 章をご参照ください。



VST プラグインのインストール先フォルダーの選択

以上で、インストールの手順は終了です。

インストールが完了したら、第3章「オーサライゼーション」に進んでください。

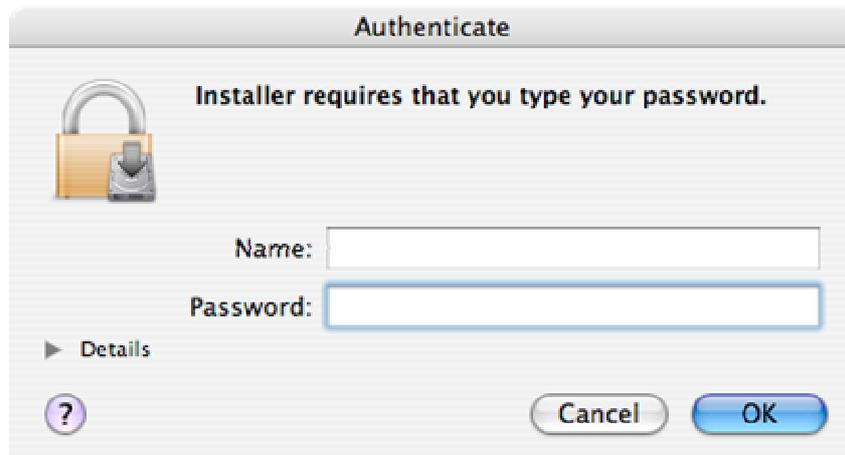
2.2 MAC OS Xでのインストール

アプリケーションCD-ROM をCD-ROM ドライブにセットし、デスクトップに表示された «Analog Factory 2.5 Setup Mac» のアイコンをダブルクリックしてください。

以下のステップに従ってください。：

- エンドユーザー使用許諾書をよく読んで承認してください。
- インストール先を選択してください。

管理者のユーザー・ネームとパスワードを入力するダイアログが現れますので、必要な項目を入力してください。



管理者認証画面

これで、スタンドアロン版のアナログ・ファクトリーのインストール準備ができました。次にプラグイン版のインストール画面が表示されますので、ここで使用するプラグインの種類を選択してください (VST,RTAS/HTDM)。

以上で、インストールの手順は終了です。インストールが完了したら、第 3 章「オーサライゼーション」に進んでください

3 オーソライゼーション

「アナログ・ファクトリー 2.5」のインストールが完了したら、シンセサイザーをオーサライズする必要があります。

 これは旧バージョンの所有者には適用されません。(旧バージョン所有者はすでに使用しているUSB Dongleを使用することで本ソフトウェアを使用することも可能です。)

以前のバージョンでは、「オリジナルCDとライセンス・ナンバー」だけのプロテクトでした。しかし、「アナログ・ファクトリー 2.5」は完璧なソフトウェア・ソリューションのシンクロソフト「ソフトeライセンス」を使用します。

このシステムはUSBポートの使用を避けて、1台の機械だけでシンセサイザーを使用することを可能にします。このオーソライゼーション・プロセスの間はインターネットに接続していなければなりません。

 もう一つのコンピュータにあなたのライセンスを移したり、他のいくつかのコンピュータで、プロフェットV2を使用する場合には以下の中から一つが必要となります。

_ USB eライセンス・ハードウェア・ Dongle (別売り、または多くの他のソフトウェアにも使用されています。) ;

_ ライセンス・コントロール・センター内のライセンス・トランスファー・ウィザードに従ってください。

この転送にはインターネット接続されていることが必要です。双方への転送に必要です。

_ ソフトeライセンスからUSB-eライセンスへ ;

_ USB-eライセンスからソフトeライセンスへ ;

詳細な情報のために、あなたのコンピュータにインストールされたシンクロソフト・ドキュメンテーションを参照してください。

最初に、あなたがこのソフトウェアを使用する事を可能にするアクティベーション・コードを得るためにあなたのソフトウェアを登録してください。

あなたの手元のアナログ・ファクトリーのライセンス・シリアル・ナンバーとアンロック・コードを確認してください。

(これらは、ソフトウェアの不可欠の部分であり、小さいプラスチックカードに印刷されます)

コンピュータをインターネットに接続して下記ウェブページにアクセスしてください。

<http://www.arturia.com/login>

コンピュータをインターネットに接続して下記ウェブページにアクセスしてください。

Want to create an account* ? [Click here](#)

下記フォームのように進行してください。

Create your account here

** Indicates required fields*

Firstname: *

Lastname: *

Email address: *

Confirm email: *

Password: *

Confirm password: *

Address:

City:

State:

Zip/Postal code:

Country: *

I wish to receive the Arturia newsletter:

すでにアカウントを所有している場合は、ログインしてください。

Already have an account ?

Email address:

Password:

Remember me:

[Forgot my password?](#)

あなたのアカウントにログインした後に、あなたのアナログ・ファクトリー 2.5 を登録し、アクティベーション・コードを要求することが可能です。

あなたのアカウントの“My Registered Products”セクションに行き、“Add”ボタンをクリックしてください。
。 :



すると、下記のようなフォームが現れ、ドロップダウン・メニューで「Analog Factory」を選択し、(登録カードに記されている)あなたのシリアル・ナンバーとアンロック・コードを入力してください。

下記は確認ウィンドウです。



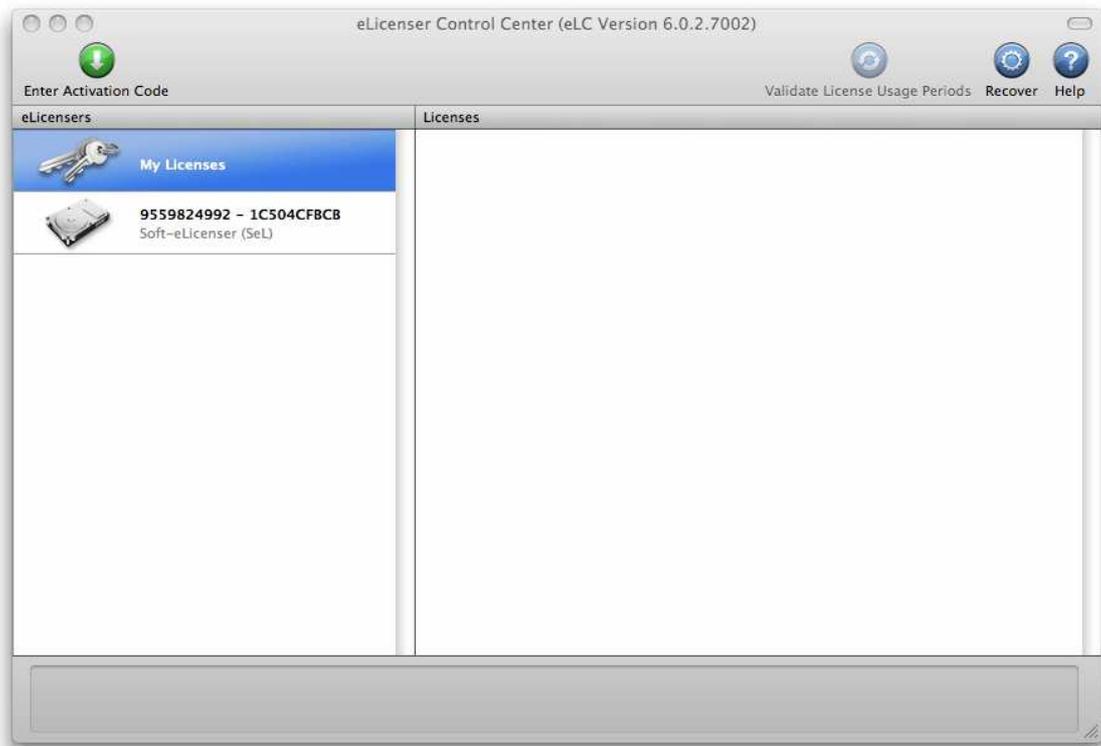
最後にあなたが「eLicenser activation code」をコピーできるスクリーンが現れます。バックアップとしてメールにて同じ情報をあなたに送信します。

あなたのコンピュータをインターネットに接続します。そしてLicense Control Centerを起動してください。このアプリケーションはあなたのコンピュータへ自動的にインストールされます：

- Windows: スタート > 全てのプログラム > eLicenser > eLicenser Control Center
- Mac OS X: ファインダー > Applications > eLicenser Control Center

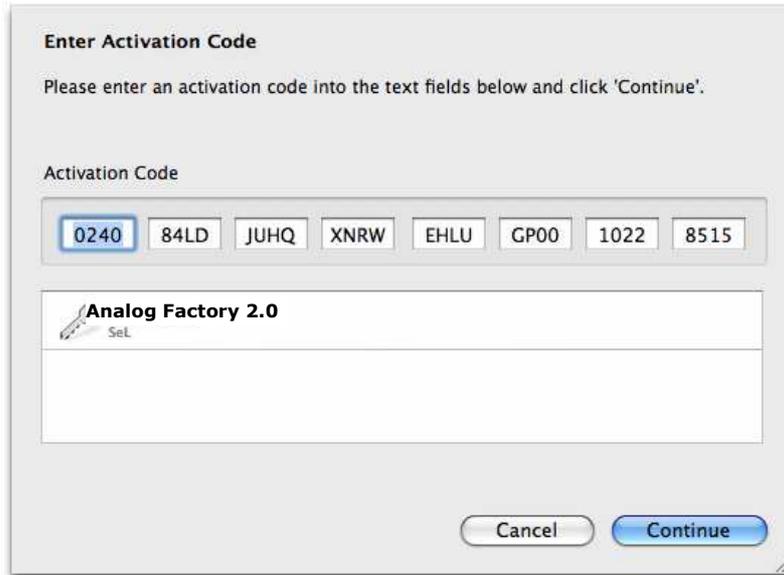
ここまでのスクリーンショットはMac OS X上で行われました。 ; プロセスはWindows 2000/XP/Vista/7 OS上でも同じですが、グラフィカル・インターフェイスだけが異なります。

「License Control Center」メイン・ウィンドウで“SeL”ソフトウェア・ dongleがあなたのコンピュータにインストールされていることを確認してください。



License Control Center メイン・ウィンドウ, *Soft-eLicensor*が何も入っていない状態。

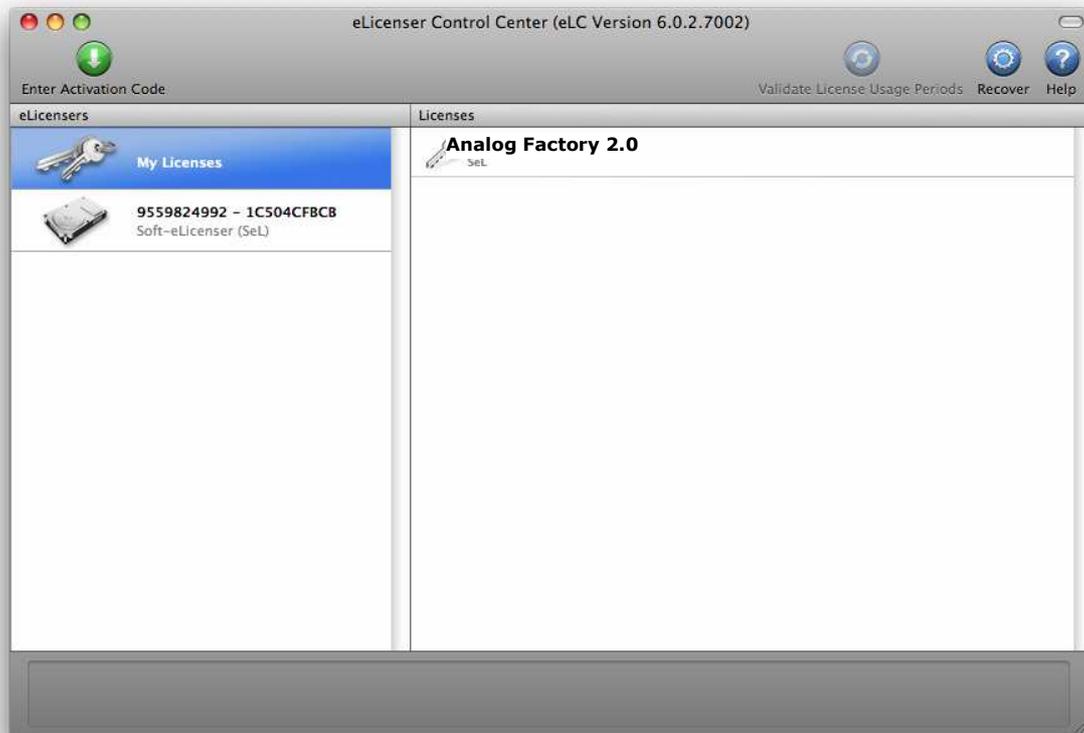
「License Control Center」メニューの“Enter Activation Code”ボタンをクリックし、アクティベーション・コードを入力してください。単純にARTURIAウェブサイトのあなたのアカウントでコピーした 32 ケタのコードをペーストするだけです。



アクティベーション・コードの入力欄

License Control Centerはアナログ・ファクトリー 2.5 を使用できるソフトウェア・ライセンスをダウンロードする準備ができています。「Continue」をクリックしてください。そしてプログレス・バーは、ダウンロードが完成するまでの進行を表示します。表示されるポップアップ・ウィンドウを確認して「Close」、そして「Finish」をクリックしてください。

現在、License Control Centerのウィンドウはあなたのアナログ・ファクトリー 2.5 ライセンスがインストールされ、アクティベートされていることを示しているはずですが。



ライセンスはインストールされ、アクティベートが完了しました。

これでアナログ・ファクトリー 2.5 シンセサイザーを思う存分使用可能です！

4 アナログ・ファクトリー 2.5 を使用する

4.1 プリファレンス



プリファレンス・ウィンドウ

バーチャル・キーボードの上部にある「AnalogFactory 2.5」のロゴをクリックすると、アナログ・ファクトリーのプリファレンスが表示され、以下の設定が可能です。

LCD COLOR

プリセット・マネージャー内の表示色をいくつかの選択肢の中から選択できます。

SHOW ANIMATION (アニメーションのオン・オフ)

キーボード表示、プリセット・マネージャー表示の際にアニメーション表示をするか、しないかを選択できます。

SHOW CONTROL POPUP WHEN "MOUSE CLICKS ON CONTROL"

マウスをつまみやスライダー上でクリックすると、そのプリセットで設定された値がポップアップ・ウィンドウ上にパラメーター名と共に表示されます。この機能のON、OFFを選択できます。

SHOW CONTROL POPUP WHEN "MOUSE RESTS ON CONTROL"

マウスをつまみやスライダー上に置くと、そのプリセットで設定された値がポップアップ・ウィンドウ上にパラメーター名と共に表示されます。この機能のON、OFFを選択できます。

SHOW ASSIGNATION LCDS

現在のキー・パラメータ・アサインを表示する小さいラベル画面を切り替え、表示します。

4.2 ツール・バー



ツール・バー

ツール・バー内にはアナログ・ファクトリーを管理する上で重要なアイコンが存在しています。

左から順に以下のアイコンが並んでいます。

PRESET, INSTRUMENT, and TYPE NAMES

現在選択されているプリセット名、楽器、タイプが表示されています。

SAVE AS

つまみ等でエディットしたプリセットを新しい名前をつけて保存します。新しいプリセットはユーザー・プリセットとして保存されます。(ファクトリー・プリセットは変更できません)プリセット名の他にもタイプやキャラクターも指定できます。

 インストールされているファクトリー・プリセットは保存や消去が出来ませんが、“SAVE AS”の機能であなたのオリジナル音色(ユーザー・プリセット)を無限に増やすことができます。

SAVE

ユーザー・プリセット を上書きします。

DELETE

ユーザー・プリセット を消去します。

IMPORT

アナログ・ファクトリーのユーザー・プリセットをインポートします。“afpresets”の拡張子のついたファイルをインポートできます。同じ名前のファイルをインポートした場合は、Duplicate(複製)、Replace(交換)、skip(スキップ)から選択します。Duplicate(複製)では同じ名前でリストが追加され、Replace(交換)では元のプリセットを消去してインポートされる音色が新しく追加されます。Skip(スキップ)ではインポートする事を中止します。

EXPORT

ユーザー・プリセットをエクスポートします。“Export”をクリックし、エクスポート先を選択します。与えられた名前に “*.afpresets”の拡張子の付いたファイルが作成されます。

 *ファクトリー・プリセットはインポート、エクスポートできません。ユーザー・プリセットだけの機能となります。*

MIDI IN

外部MIDIコントローラーからの MIDI信号を受信するとライトが点灯します。

Channel Select

このドロップダウン・メニューは、アナログ・ファクトリーがMIDI情報を受信するチャンネルを選択します。デフォルトでは、OMNI (すべてのMIDIチャンネルを受信する) に設定されています。

TUNE

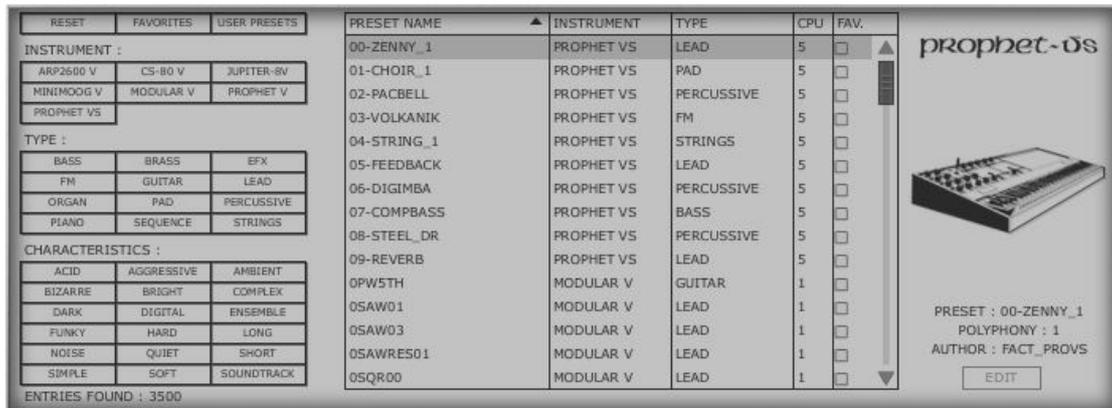
アナログ・ファクトリー全体のチューニングを設定できます。他の楽器とのアンサンブルに備え、微妙なチューニングを行う事ができます。

VIEW

インターフェイスの見せ方を選択します。全体表示、キーボード表示のみ、プリセット・マネージャー表示のみの3種類から選択できます。

4.3 プリセット・マネージャー

アナログ・ファクトリーは様々な音色をプリセットとして搭載しており、その数は 3500 音色にもなります。一つのプリセットには、その音色がどのような用途で使われ、何に最適か？等の様々な情報が含まれています。アナログ・ファクトリーでは、簡単に目的に合致する適切な音色を 3500 音色の中から探す事ができる、様々な方法があります。検索できる要素として「シンセサイザーの検索」、「楽器タイプの検索」、「キャラクター別の検索」があり、プリセット・マネージャー画面の右側にて選択します。では、それぞれを見ていきましょう。



プリセット・マネージャー画面

4.3.1 Instrument (シンセサイザーの検索)

“INSTURUMENT (シンセサイザーの検索)”でアナログ・ファクトリーに搭載している、以下の 6 種類のアナログ・シンセサイザーを選択できます。

- Moog Modular V (モーグ・モジュラー V)
- CS-80 V
- minimoog V (ミニモーグ V)
- Arp 2600 V (アープ 2600 V)
- Prophet V (プロフェット V)
- Prophet VS (プロフェット VS)
- Jupiter-8V (ジュピター V)

例えば、「CS-80V」のみをクリックすると、プリセット・マネージャー画面には「CS-80V」によるすべてのプリセットがリストに表示されます。また「CS-80V」と「ARP2600V」の 2 つを選択すると、「CS-80V」と「ARP2600V」によるすべてのプリセットがリストに同時に表示されます。INSTURUMENTが何も選択されていない場合は、自動的にすべてのプリセットが表示されます。

4.3.2 Type (楽器タイプの検索)

“TYPE (楽器タイプの検索)”には、以下の様々な楽器別タイプがあります。

- Bass (ベース)
- Pad (パッド)

- Lead (リード)
- EFX (サウンド・エフェクト)
- FM (周波数変調)
- Brass (ブラス)
- Percussive (パーカッシブ)
- Sequence (シーケンス)
- Strings (ストリングス)
- Guitar (ギター)
- Organ (オルガン)
- Piano (ピアノ)

“INSTRUMENT (シンセサイザー検索)”での動作と同様に、1 つまたは 2 つ以上のタイプを選択することができます。「BASS」を選択する事で、すべての「BASS」音色がリストに表われます。

「BASS」と「STRINGS」を選択した場合、両方のタイプの音色が表われます。

例えば、「BASS」「PAD」「STRINGS」の楽器タイプを「MOOG MODULAR V」と「ARP 2600 V」のシンセサイザーの中から検索するといった凝ったことも可能です。

4.3.3 Characteristics (キャラクター別の検索)

第 3 の検索方法として、“CHARACTERISTICS (キャラクター別の検索)”があります。ここでは、そのプリセットが持つ、以下のムードや雰囲気をキーワードに目的の音色を検索できます。

- Bright (ブライト) ~ 明るい
- Dark (ダーク) ~ 暗い
- Aggressive (アグレッシブ) ~ 攻撃的な
- Quiet (クワイエット) ~ 静かな
- Hard (ハード) ~ 硬質な
- Soft (ソフト) ~ ソフトな
- Complex (コンプレックス) ~ 複雑な
- Simple (シンプル) ~ シンプルな
- Short (ショート) ~ 短い
- Long (ロング) ~ 長い
- Bizarre (ビザール) ~ 奇妙な
- Acid (アシッド) ~ 幻想的な

- Ambient (アンビエント) ← 包み込むような
- Digital (デジタル) ← デジタルな
- Ensemble (アンサンブル) ← 多重感のある
- Noise (ノイズ) ← ノイジーな
- SoundTrack (サウンドトラック) ← SF映画のサウンドトラックのような
- Funky (ファンキー) ← ファンキーな

もう一度、これらのフィルターは個々に、またはユーザーがプリセットをイメージする順序で望むように、どんな組み合わせでも適用することが可能です。

4.3.4 Entries Found (検索結果)

プリセット・マネージャー画面の左下部に、検索されたプリセット数が表示されます。

4.3.5 Filter Options (フィルター・オプション)

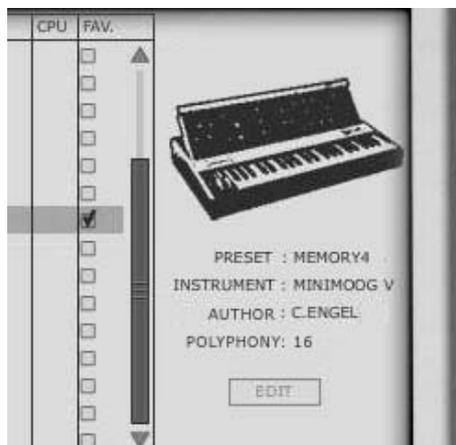
左上部には、RESET (リセット)、FAVORITES (フェイバリット)、USER (ユーザー) の選択肢があります。

RESET	検索結果をリセットする際に使用します。新しい検索を行う際には、このPRESET (リセット) 押してから始めるといいでしょう。
--------------	---

FAVORITES	3.3.7 章にあるフェイバリット (お好み音色) ・ リストにチェックされたプリセット音色が表示されます。このフェイバリット機能が選択されている場合、シンセサイザー、楽器タイプ、キャラクター別の検索はこのフェイバリットのリスト内で行われます。
------------------	--

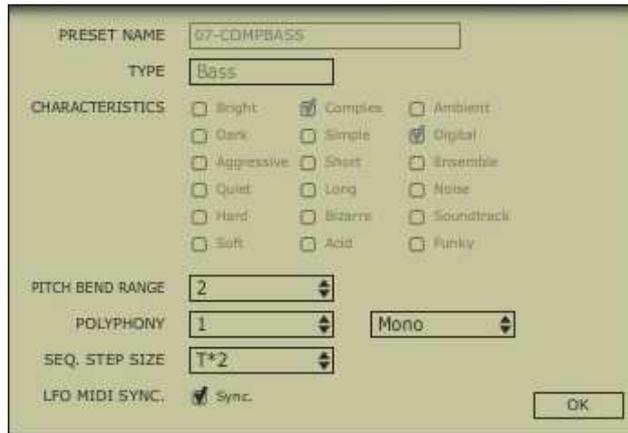
USER	USER PRESETS (ユーザー・プリセット) が表示されます。プリセットを修正、作成して”SAVE AS”した場合、この USER PRESETS にメモリーされます。 この USER PESETSが選択されている場合、シンセサイザー、楽器タイプ、キャラクター別の検索はこの USER PRESETS のリスト内で行われます。
-------------	---

4.3.6 プリセット音色の情報



現在選択されているプリセット音色の情報は、プリセット・マネージャー画面の右側に表示されます。そのプリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナル・アナログ・シンセサイザーのイメージ画像とともに、以下の情報が表示されます。

PRESET	現在選択されているプリセット音色の名前です。
INSTRUMENT	現在選択されているプリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナル・アナログ・シンセサイザーの名称です。
AUTHOR	現在選択されているプリセット音色を作成したプログラマーの名前です。
POLYPHONY	現在選択されているプリセット音色で演奏可能なポリフォニック (和音) 数です。
EDIT	USERPRESETS (ユーザー・プリセット) が選択されている際に、その音色が持つ様々なインフォメーションを修正することができます。この「EDIT」を押すと、ウィンドウ上にて音色名、楽器タイプ、キャラクターを変更、修正することができます。



EDITプリセット・ウインドウ

4.3.7 構成

プリセット・マネージャーにより、3500ものプリセット音色から目的に合致した音色をスピーディに検索する事ができますが、このプリセット・マネージャー上に表示された音色には、いくつかの情報が同時に表示されています。通常、PRESETNAME (プリセット音色名) は1~A~Z順に並んでいますが、逆順での表示も可能です。

PRESETNAME (プリセット音色名) のエリアをクリックする事で上向き、下向きの三角形が表われ、1~A~Z順、逆順が切り替わります。以下のINSTRUMENT、TYPE、CPU、FAVORITESでも同様の並び替えが可能です。

INSTRUMENT	プリセット音色がサウンドエンジンとして使用しているオリジナル・アナログ・シンセサイザー(minimoog V、 Moog Modular V、 ARP 2600 V、 CS-80 V、 Prophet V、 ProphetVS) の名称が表示されます。
TYPE	それぞれのプリセット音色の楽器タイプが表示されます。
CPU	それぞれのプリセット音色がどれだけCPUに負荷をかけるのかを1~5の範囲で表示します。1だとCPU負荷が軽く、5がより多くのCPU負荷をもたらします。
FAVORITES	「FAV」と表示され、ここのボックスにチェックを入れるとプリセット・マネージャー画面左上の「FAVORITES (フェイバリット)」に自動で登録されます。FAVORITESとは「お好み」という意味で、まさに、3500音色の中にお好みの音色が見つかったら、すぐにチェックをいれることをお勧めします。

4.4 キーボード画面

“アナログ・ファクトリー 2.5”のキーボード画面には仮想キーボード（鍵盤部分）とプリセット音色を修正するための様々なコントローラー（つまみ、スライダー、スイッチ等）があります。

4.4.1 仮想キーボード（鍵盤部分）

仮想キーボードの左にある”LEVEL（レベル）”のつまみが“アナログ・ファクトリー”のマスターボリュームで、右に回す事によりアウトプット・レベル（音量）が増します。

仮想キーボードは 32 の鍵盤で構成されており、この仮想キーボードを使用する事で、外部MIDIキーボードがなくても“アナログ・ファクトリー”の音を出すことができます。仮想キーボードの左側、モジュレーション・ホイールの上には“TRANSPOSE”（トランスポーズ）機能があり、キーボード上でのオクターブ・レンジをマイナス/プラス・ボタンでシフト（移調）する事が出来ます。



仮想キーボード

4.4.2 2つのホイール

仮想キーボードの左側にはピッチベンドとモジュレーションのホイールがあり、それぞれ音程や変調をコントロールできます。



2つのホイール

- | | |
|--------------------|--|
| PITCH WHEEL | 音程（ピッチ）をコントロールします。上方向で音程が上がり、下方向で音程が下がります。通常は中央に位置しています。 |
| MOD WHEEL | モジュレーション（変調）をコントロールします。MIDIコントロール・ナンバーは“1”にセットされています。プリセット音色によってビブラート、ワウワウ、フィルター等の効果が割り当てられています。 |

⚠️ 必ずしも全音色でモジュレーション・ホイールが接続されているわけではありません。モジュレーション・ホイールが設定されているプリセットでご使用ください。

4.4.3 フィルター



フィルター

- | | |
|-------------------------|--|
| CutOff | カットオフ周波数を変化させます。このつまみを右方向に回すと音色が明るくなり、左方向に回すと暗くなります。 |
| Resonance (RESO) | フィルター・レゾナンスを変化させます。このつまみによりカットオフ周波数付近の倍音が変化し、ミヨンミヨンという癖のある音に変化します。 |

4.4.4 LFO

LFOはLowFrequencyOscillator（低周波数発信器）のことで、“アナログ・ファクトリー”における変調元として使用されます。ビブラートやワウワウ等の多様な効果を作り出すパラメーターとして以下の2つが割り当てられています。



LFO

Rate | 変調スピードを調整します。右方向で速くなります。

Amount | 変調の量を調整します。右方向で変調量が多くなります。

4.4.5 Key Parameters (キー・パラメーター)

“KEYPARAMETERS (キー・パラメーター)”はとりわけ便利なたつまみで、仮想キーボードの中央部に位置しています。



Key Parameters (キー・パラメーター)

それぞれのプリセット音色にとって最もユニークで適切なパラメーターを 4 つ選び、その音色がユニークに変化するためにどれくらいの量が適切であるかを、綿密な調査、検証を繰り返し、細心の注意をもって割り当てられています。この方法により、音楽制作においてとても有益な音色調整、修正が可能となります。

4 つのつまみに何のパラメーターが割り当てられているかは、マウスをKEYPARAMETERSのつまみの上に合わせたときに表われるインフォメーション・ブロックで確認できます。

4.4.6 FX MIX (エフェクト・ミックス)

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”は、シンプルですが便利なエフェクト・セクションを搭載しています。CHORUS (コーラス) と DELAY (ディレイ) の 2 種類のエフェクトがあり、あなたが使用しているシーケンス・ソフトウェア上の曲のテンポと自動的に同期します。もっとエフェクトが必要な場合は、Cubase、GarageBand、ProTools等のシーケンス・ソフトウェアが搭載しているエフェクトを活用するのも一考です。



FX MIX (エフェクト・ミックス)

Chorus	コーラス効果はディープでリッチなサウンドにするために、多重感、ディチューン感を加えます。左目一杯の位置でコーラス効果は 0 となり、右方向でよりコーラス効果が深くなっていきます。
Delay	ディレイ効果はエコーとも呼ばれサウンドをより空間的に演出できます。ディレイ成分である繰り返し音は、あなたが使用しているシーケンス・ソフトウェア上の曲のテンポと自動的に同期します。左目一杯の位置でディレイ効果は 0 となり、右方向でよりディレイ効果が深くなっていきます。

4.4.7 ADSR faders

“ADSR”形式のエンベロープ・ジェネレーターで音色を修正できます。

ADSR とは、Attack time (アタック・タイム)、Decay time (ディケイ・タイム)、Sustain time (サステイン・レベル)、Release time (リリース・タイム)を表します。

ATTACK	鍵盤を押した際の音の立ち上がりを調整します。アタック・タイムが速いと音の立ち上がりが速くパーカッシブな音になり、アタック・タイムが遅いと音の立ち上がりが遅く、パッド系サウンドに適した感じになります。
DECAY	アタック・タイムの後、サステイン・レベルに到達するまでの減衰を調整します。
SUSTAIN	鍵盤を押している間に持続しているレベルを調整します。
RELEASE	鍵盤を離した後、音が完全に消えるまでの余韻の時間を調整します。

これらのADSR、4つのスライダーにより、“アナログ・ファクトリー”のそれぞれのプリセット音色のエンベロープをととても簡単にエディットすることができます。例えば、音の立ち上がりが極端に遅いので少し立ち上がりを速くしたい音色があった場合、Attacktime (アタック・タイム)を表す“A”のスライダーで簡単に調整できます。



ADSR スライダー

以降の項でも説明いたしますが、“アナログ・ファクトリー 2.5 ”はマウスで操作するよりも、MIDIキーボードでの操作の方がより直感的な操作ができるでしょう。

4.4.8 SNAPSHOT Buttons (スナップショット・ボタン)



スナップショット・ボタン

スナップショット・ボタンは、仮想キーボードの左上部に位置しています。これら 8 つのボタンで、簡単なアクセス用を使用するプリセットを 8 つまで素早く保存することができます。これら 8 つのスナップショットは、“アナログ・ファクトリー”を終了する時に自動的に保存され、再度“アナログ・ファクトリー 2.5 ”を起動した際に自動的に戻ってきます。

この機能はライブ・パフォーマンス時にも便利でしょう。8 つのスナップショットをMIDIコントローラーのボタンやパッドから制御する事で素早い音色の切り替えが出来ます。

音楽制作時においても、修正した音色の比較が瞬時にできるのでとても便利です。例えば、1 つのプリセット音色から、少々カットオフ周波数を動かしたものの、エフェクトを深くしたもの等をスナップショットしておき比較しながら、じっくりと良い方を選択する事が出来ます。

スナップショットの方法：

- シンプルに現在使用中のプリセットを保存したい場合、8 つの任意のボタン上で、**Shift (シフト) キー+マウスでClick**(Macでは ⌘ +クリック)をすると現在使用中の音色がそのボタンに保存されます。
- その後、そのボタンをクリックすると保存した音色が呼び戻されます。
- もし、同じボタン上で**Shift (シフト) キー+マウスでClick**(Macでは ⌘ +クリック)をすると、以前そこに保存されていた音色は消去され、新たな音色が上書きされます。

4.4.9 MIDIコントロール

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”上のほとんどのつまみ、スライダー、スイッチは外部MIDIコントローラーで制御でき、高レベルのユーザービリティを理想的な方法でコントロールできます。以前はコンピューター上でMIDIデバイスを有効にするために、面倒ながらも正確に接続をしなければなりませんでした。

“アナログ・ファクトリー 2.5”のあらゆる機能は決められたチャンネルで送られるMIDIイベントを受け付けます。

この受信チャンネルはシンセサイザーのための世界的な規格でシーケンサー、またはスタンドアローンの“アナログ・ファクトリー 2.5”アプリケーションでも受信可能です。“アナログ・ファクトリー 2.5”は異なるMIDIチャンネルを受信することが可能です。

“アナログ・ファクトリー 2.5”では、パソコンのキーボード上の“コントロールキー”を押しながら、つまみ、スライダー、スイッチをマウスでクリックする事で、簡単に外部MIDIコントローラー上のつまみ、スライダー、スイッチ等と連携する事が可能です。

注意：Macintoshの場合はコマンド・キー+マウスでクリック

クリックするとウインドウが表われ、MIDIコントロール・ナンバーを選ぶことができます。また「Learn」を押すと表示が反転して「Learning...」と変わり、この状態で外部MIDIコントローラー上のつまみ、スライダー等を動かすと、自動的にMIDIコントロール・ナンバーを認識します。MIDIコントロール・ナンバーによる制御を解除したい場合は、「Midi CC」の右の数字をクリックし、リスト左上の“none”を選択します。



MIDIコントロール・ウインドウ

5 様々なモードでの使用方法

5.1 スタンドアローン・モードで使用する

“アナログ・ファクトリー 2.5”アプリケーションは、シーケンサーから独立したインストルメントとして使用することができます (スタンドアローン・モード)。“アナログ・ファクトリー 2.5”では、1つ、または複数台のインストルメントとして開くことができ、外部MIDIキーボードや他のコンピューターで動作するシーケンス・ソフトウェアを使って演奏することができます。

5.1.1 アプリケーションを立ち上げる

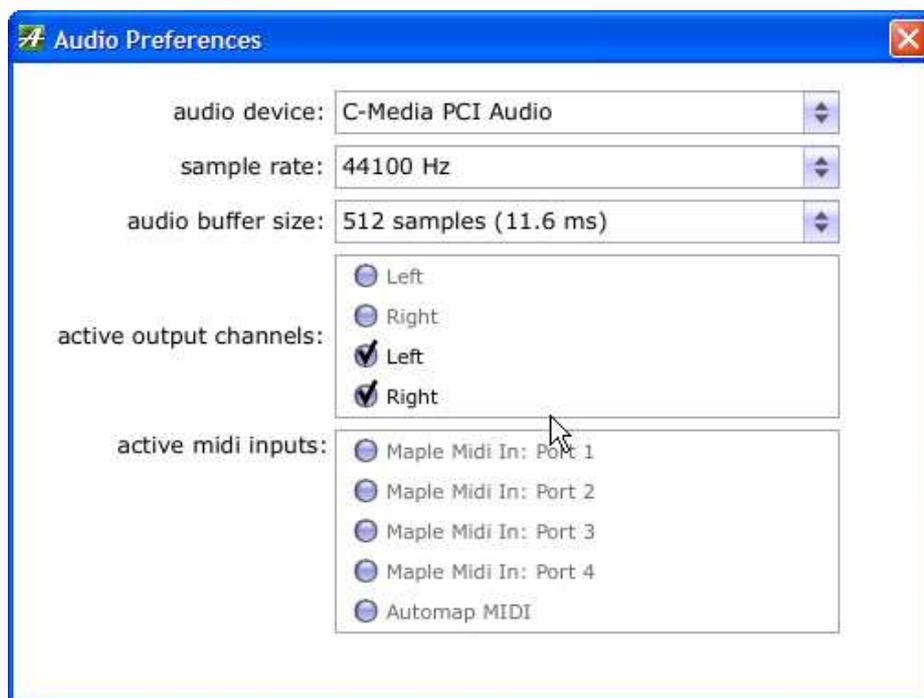
Windowsの場合： “アナログ・ファクトリー 2.5”アプリケーションを起動するには、スタートメニュー → Arturia → “Analog Factory 2.5”を選択します。

Macintoshの場合： アプリケーション・フォルダー → Arturia/AnalogFactory 2.5 フォルダーを開き、 “AnalogFactory 2.5”アプリケーションのアイコンをダブルクリックします。

5.1.2 初期設定の変更

「初期設定」ウインドウでは、“アナログ・ファクトリー”の初期設定をおこなうことができます。また、ここで設定したセッティングは自動的に保存されます。

初期設定を表示するには、「ファイル」メニューから”Audio & Midi Preferences”を選択します。



初期設定ウィンドウ(Macintosh、Windows共通)

Audio Device	ここであなたが使用したいオーディオ・デバイスを選択します。
Sample Rate	ここで、あなたが使用したいサンプリング周波数を選択します。高いサンプリング周波数を選択すると使用するコンピューターのプロセッサー (CPU) に負荷がかかりますので、ご注意下さい。
Audio Buffer Size	ここでご使用になるオーディオインターフェースの最適なレイテンシーを選択します。ご使用のシステムに合わないセッティングをされた場合、不自然な音が出る場合がありますので、設定には充分ご注意ください。
Output Channels	オーディオ出力のアウトプットを選択します。いくつかの選択肢がある場合は、ステレオ出力に適した左右ペアのアウトプットを選択してください。
Active MIDI input	外部MIDI機器、コントローラーを使用する際のMIDIデバイスを選択します。使用可能なMIDIデバイスが表示されます。

5.2 VST™

5.2.1 インストール

5.2.1.1 Windows の場合

インストール中に表示されるプラグイン・フォーマットの選択画面でVSTオプションを選択してください。Cubaseをご使用の場合、インストーラーは自動的にVSTプラグイン・フォルダーを検出し、プラグイン・ファイルをインストールします。Logic Audioなど他のVST互換性を持つシーケンサーをご使用の場合は、適切なフォルダーにプラグインのファイルを手動でコピーする必要があります

プラグイン・ファイルは下記の場所にインストールされています：

フォルダー名 « C:\Program\Files\Arturia\ANALOG FACTORY\»

ファイル名 « ANALOG FACTORY.dll »

5.2.1.2 Mac OS X の場合

MacOS X の場合、プラグイン・ファイルはすべて自動的にインストールされます。インストール完了後、VSTプラグインに対応したホスト・アプリケーションから起動して使用することができます

プラグイン・ファイルは、「/ライブラリ/Audio/Plug-Ins/VST/」にインストールされています。

5.2.2 VSTインストゥルメントとして使用する場合

“アナログ・ファクトリー 2.5”をVSTプラグインとして使用する場合、他のVSTプラグインと同じ方法でご使用になれます。詳細はホスト・アプリケーションのユーザー・マニュアルを参照してください。

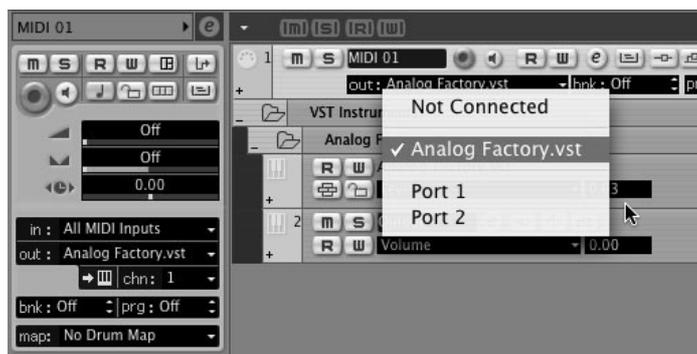
Cubaseでご使用になる場合、「デバイス / VST インストゥルメント」メニューを開いてラックの中から“ANALOG FACTORY 2.5”を選択して下さい。



Cubaseで“アナログ・ファクトリー”を起動する

5.2.2.1 MIDIトラックとの接続

MIDIトラックに入力したノート情報で“アナログ・ファクトリー 2.5 ”を演奏させるにはMIDIトラックを選び、(Cubaseの場合)メニューから使用するトラックのMIDI出力として”ANALOG FACTORY 2.5 ”を選択します。



「アナログ・ファクトリー」をMIDIトラックに接続

MIDIキーボードで演奏されたMIDIイベントは、シーケンサーを通じて“アナログ・ファクトリー 2.5 ”に送信されます。これらのMIDIイベントを録音し、シーケンサーのMIDIエディット機能を使用して編集することも可能です。

5.2.2.2 プリセットの保存

セッションを保存すると、プリセットを変更した音色であっても”アナログ・ファクトリー 2.5 ”で操作した情報は保存されます。例えば、プリセットの « P1 » をエディットした音色を « P2 » として保存していなくても、次にその曲を開くと”アナログ・ファクトリー 2.5 ”のプリセット « P1 » を変更した音色が保存されています。

VST対応のホスト・アプリケーションのメニューからプラグイン・インストゥルメントに関する設定を保存することも可能です。しかし、特に必要がない場合、”アナログ・ファクトリー 2.5 ”のユーティリティー・バーから保存することをお奨めします：この方法で保存されたプリセットは他のモード(スタンドアローン、他のシーケンサー)でも使用でき、独立したファイルとしてエクスポートすることができます。

5.2.2.3 オートメーション

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”へのオートメーション操作は他のVSTプラグインと同様です(詳細についてはVSTシーケンサーのプラグイン・オートメーション関連の項目を参照ください)。

5.3 Audio Unit™ (Mac OSXのみ)

5.3.1 インストール

プラグイン・ファイル (コンポーネント・ファイル) はインストール・プログラムによって自動的にインストールされます。 (/ライブラリ/Audio/Plug-Ins/Component/)

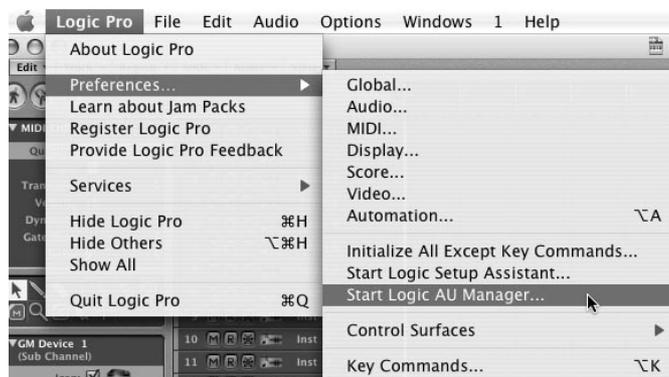
5.3.2 Logic Proの場合

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”を挿入するインストゥルメント・トラックを選択し、そのトラックのミキサー・ウインドウの“I/O”ボタンをクリックします。表示されたメニューをStereo -> AU Instrument (またはAudio Unit) -> Arturia -> “ANALOG FACTORY 2.5 ”の順に選択するとAudio Unitインストゥルメントとして起動することができます。



Logic Pro でアナログ・ファクトリー”を開く

Logic Pro 7 以降にはAUマネージャーが搭載されています。AUマネージャーを起動するには“Logic Pro”メニューから“Preferences -> Start Logic AU Manager”の順に選択してください。



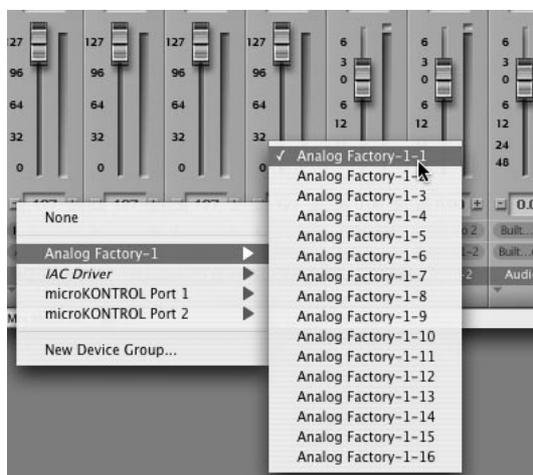
AUマネージャーの起動

AUマネージャーでは、使用可能なプラグインのリストの表示、Logicとの互換性、プラグインの使用/不使用などを設定することができます。

Logic上でトラブルが発生した場合は、この機能を使用して互換性のチェック等を行ってください。

5.3.3 Digital Performer の場合

Digital Performerのメニュー・バーで「Project>Add Track>Instrument Track」を選択すると、インストールされているAudio Unitインストゥルメントのリストが表われ、「ANALOGFACTORY 2.5」を選択すると起動することができます。



Digital Performer4 で“アナログ・ファクトリー”を開く

5.4 Pro Tools™

5.4.1 インストール

インストール中に表示されるプラグイン・フォーマットの選択画面でRTAS protocolを選択してください (Windowsのみ)。Macintoshは自動的にプラグイン・ファイルがインストールされます。

RTASプラグインをインストールするフォルダーを選択するアラートが出た場合、次のパスを指定してください：

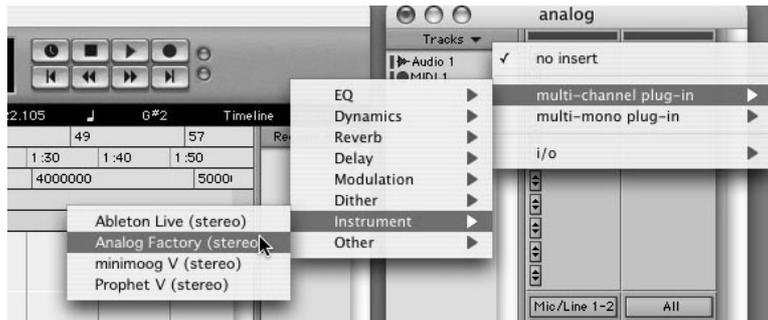
Mac OS Xの場合：/ライブラリ/Application Support/Digidesign/Plug-Ins/

Windowsの場合：C:\Program Files\Common Files\Digidesign\DAE\Plug-Ins

5.4.2 プラグインとしての利用

5.4.2.1 Opening of the plug-in

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”をプラグインとして起動するには、他のプラグイン同様オーディオ・トラックに挿入します（下図の例を参照）

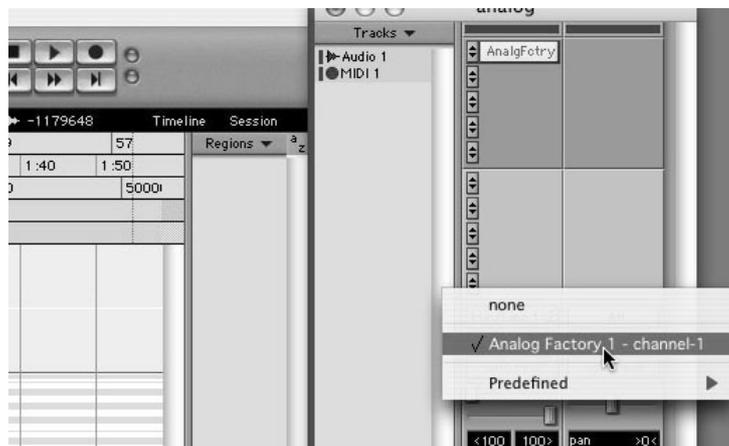


Pro Tools上で“アナログ・ファクトリー 2.5”を起動する

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”は、ステレオ・オーディオ・トラックに挿入する必要があります。プラグイン起動後は、マウスやバーチャル・キーボードを使って“アナログ・ファクトリー 2.5 ”を演奏することができます。

5.4.2.2 MIDIトラックとの接続

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”はMIDIトラックのノート情報で演奏することができます。この場合は、使用したいMIDIインターフェイスやMIDIチャンネルの設定を“アナログ・ファクトリー 2.5 ”に関連付けてください。以降、”。アナログ・ファクトリー 2.5 ”はキーボードを通じてコントロールできます（デバイス接続についての詳細はPro Toolsのマニュアルを参照ください）。



MIDIトラックへの接続

5.4.2.3 プリセットの保存

セッションを保存すると、プリセットを変更した音色であっても”アナログ・ファクトリー 2.5 ”で操作した情報は保存されます。例えば、プリセットの « P1 » をエディットした音色を « P2 » として保存していなくても、次にその曲を開くと”アナログ・ファクトリー 2.5 ”のプリセット « P1 » を変更した音色が保存されています。

ProToolsの<<Librarian Menu>のソング保存機能を使用してソングを保存することで音色等の設定を保存することも可能です。しかし、特に必要がない場合、”アナログ・ファクトリー”のユーティリティー・バーから保存することをお奨めします：この方法で保存されたプリセットは他のモード（スタンドアローン、他のシーケンサー）でも使用でき、独立したファイルとしてエクスポートすることができます。

5.4.2.4 オートメーション

“アナログ・ファクトリー 2.5 ”へのオートメーション操作は他のRTAS/HTDMプラグインと同様です。（プラグインのオートメーション機能の詳細については、ProToolsのマニュアルをご参照ください）

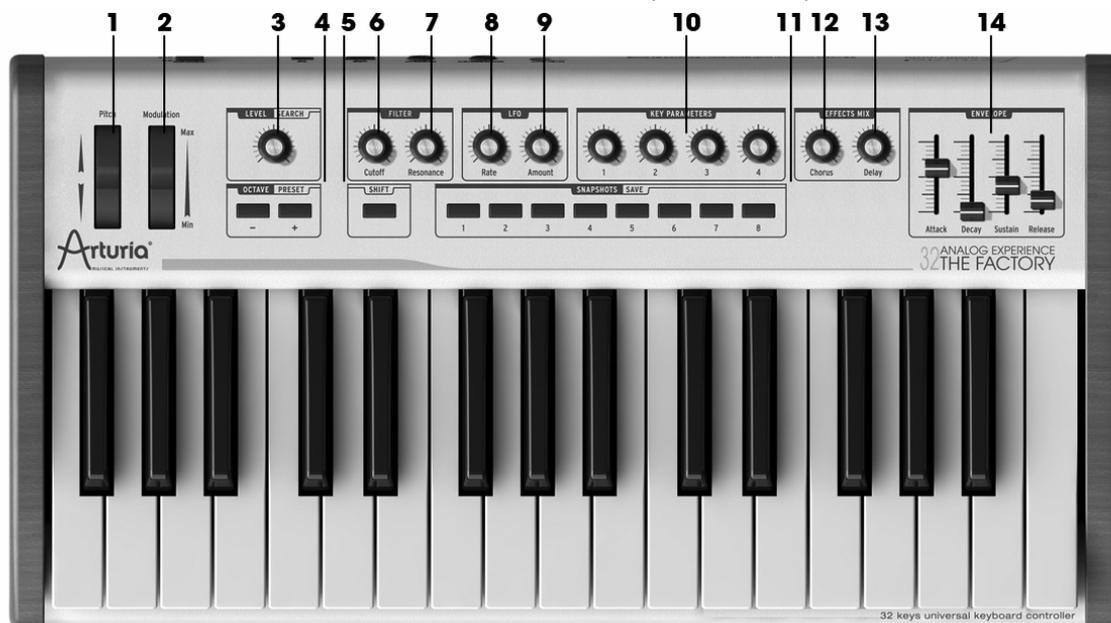
6 アナログ・ファクトリー・キーボード

(ANALOG FACTORY EXPERIENCEのみ)

6.1 アナログ・ファクトリー・キーボード フロント・パネル概観

アナログ・ファクトリー・キーボードは、ソフトウェアのコントロール画面と同一の機能を持つ、ペロシティ・センサー付き 32 鍵のキーボードです。

アナログ・ファクトリー・キーボード、前面パネルの概観 (左から右へ)



- 1) ピッチベンド・ホイール
- 2) モジュレーション・ホイール
- 3) ヴォリューム ノブ/ナビゲーション・ノブ (押し込んでロータリーノブになる)
- 4) オクターヴ +/- or プリセットUp/Downボタン
- 5) シフトボタン
- 6) フィルター・カットオフ
- 7) フィルター・レゾナンス
- 8) LFO 周波数
- 9) LFO デプス
- 10) 4 キーパラメーター ノブ
- 11) 8 スナップショットボタン

- 12) コーラス・ ミックス ノブ
- 13) デイレイ・ ミックス ノブ
- 14) 4 ADSR エンベロープ・ スライダー

6.1.1 キーボード

アナログ・ ファクトリー・ キーボードは 32 鍵のペロシティセンサー付きキーボード、コントローラーです。

6.1.2 シフトボタン

シフトボタンはアナログ・ ファクトリー・ キーボードを”シフト”モードにセットします。このボタンが押されると、ライトが点灯し、”シフト”モードに切り替わります。”シフト”モードでは、オクターブ ボタンが、プリセット 選択ボタンとして機能し、スナップショットボタンがセーブボタンとして機能します。

下記のような特徴があります。：

- プリセット/オクターブ
- スナップショット/セーブ・ ボタン
- レベル/サーチ・ ロータリー・ エンコーダー

これらの機能の詳細については、以下の章を参照してください。

6.1.3 ロータリーエンコーダー

アナログ・ ファクトリー・ キーボードには 11 個の無限に回転するロータリーエンコーダー (ツマミ) が搭載されています。ツマミを押すことで、ロータリー・ モードになります。

- 「シフト」モードを使用していない場合、このツマミは「レベル/サーチ」ロータリー・ エンコーダーとしてシンセサイザーのボリュームをコントロールします。
- 「シフト」モードを使用している場合、このツマミはシンセのタイプ、またはキャラクターを選択します。

エンコーダーを押した場合、アナログ・ ファクトリー 2.5 の便利なプリセット・ マネージメント・ システムを使用してプリセットをブラウジングすることが可能です。

 このスイッチ・ オプションを使用する場合、エンコーダーが他のものと異なっていることを理解しておいてください。エンコーダーをクリックすると、「サーチ」モードのオン/オフ、または検索基準について。

6.1.4 プリセット/オクターブ・ボタン

このボタンには (シフト・ボタンと組み合わせて) 2 つの機能があります。 : オクターブ・トランスポートとプリセット選択です。

- 「シフト・ボタン」を押していない場合、このボタンはオクターブの上下ボタンとして動作します。3 オクターブまでの増減が可能です。プラス/マイナス・ボタンを押してソフトウェアを好ましいオクターブに設定します。LEDによる 7 種類のステイタスは、現在どのオクターブ・セッティングなのかを表示します。
 - オクターブ -3 : LED- 点滅スピード 3、LED+ 点滅無
 - オクターブ -2 : LED- 点滅スピード 2、LED+ 点滅無
 - オクターブ -1 : LED- 点滅スピード 1、LED+ 点滅無
 - オクターブ 0 : LED-と LED+ともに点滅無
 - オクターブ +1 : LED+ 点滅スピード 1、LED- 点滅無
 - オクターブ +2 : LED+ 点滅スピード 2、LED- 点滅無
 - オクターブ +3 : LED+ 点滅スピード 3、LED- 点滅無
- 「シフト・ボタン」を押している場合、アナログ・ファクトリー 2.5 が持つ膨大なライブラリーを簡単に閲覧するための「プリセット上/下」ボタンとして機能します。

6.1.5 スナップショット/セーブ ボタン

スナップショット/セーブ ボタンはスナップショットの記憶/呼出しに使います。

全ての編集可能なパラメータはスナップショットとして保存出来ます。通常はスナップショットの呼出ボタンですが、「シフト」モード時はスナップショットのセーブボタンとして機能します。

- 「シフト」モードを使用していない場合、このボタンはスナップショット機能として動作します。
- 「シフト」モードを使用している場合、このボタンはスナップショットを保存します。アナログ・ファクトリー 2.5 のエディットした結果はすべてスナップショットとして保存されます。

6.2 2つのホイール

これら 2 つのホイールはリアルタイムにピッチシフトとモジュレーション量のセッティングに使用可能です。

6.2.1 Pitch wheel

ピッチホイールを動かすことで、現在演奏しているノートのピッチが変化します。ピッチのレンジはプラスマイナス1オクターブですが、その幅は、選択された音色により変化します。

6.2.2 モジュレーション・ホイール

モジュレーション・ホイールを動かすことにより、現在演奏している音色のモジュレーション・デプスをコントロールします。その変化幅は、選択された音色により異なります。

 モジュレーション・ホイールは必ずしも有効であるとは限りません。プリセットの設定に依存します。

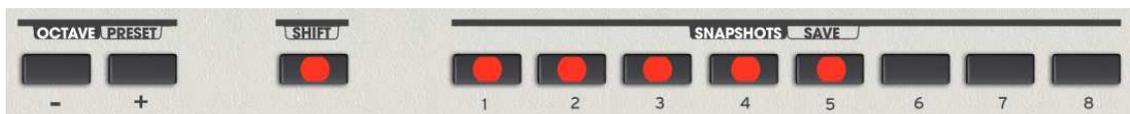
6.3 アフタータッチ

このキーボードは、チャンネル・アフタータッチを送信することが可能です。

(すべての鍵盤の共通のプレッシャー値)

アフタータッチは以下のような効果に調整可能です。：

1. 電源を切り、シフト・ボタンと、一番左のツマミを両方とも押し、入れてください。
2. 電源が入った後、キーボードはアフタータッチ・キャリブレーション・モードに入ります。LEDが点灯し、現在のセッティングを表示します。すべてのボタンにある11個のLEDがこのモードで使用されます。一番左のLEDはアフタータッチ値の最初のブロックを表示します。一番右のLEDは最も高いアフタータッチ値を示します。実際の値はハイライトされます。(下に示される範囲は大雑把に「24-96」とあるように1つのLEDはおよそ12のアフタータッチ・ステップをカバーします。)



3. 任意の圧力で鍵盤を押すとアフタータッチ効果を生み出します。LEDはおよその位置を示します。この値の力がアフタータッチ効果のスタートになります。この値よりもプレッシャー値が低い場合は普通にプレーします。最も高いアフタータッチ値がノートオンとノートオフの間で出たことは考慮されます。言い換えると行き過ぎてしまった場合、一度リリースし、他の音を出し直す必要があります。
4. 一番左のエンコーダーを押して確定してください。

5. 最大の値を設定します。(アフタータッチ値 = 127) LEDはおよその位置を表示します。プレッシャーはこのステップ3で使用した値よりも高くなくてはなりません。
6. シフト・ボタンと左側のノブを押し、このセッティングを確定し、このモードからの退出を行ってください。
7. 電源をオフにしてもこのセッティングはメモリーされますが、キーボードをイニシャライズ(初期化)した場合にはこのセッティングはデフォルトに戻ります。

6.4 シンセシス・セクション

アナログ・ファクトリー 2.5 のすべてのシンセシス・パラメータです。

6.4.1 フィルター制御 ロータリーエンコーダー

選択されたプリセット音色の「フィルターカットオフ周波数」と「レゾナンス」をコントロールする2つのノブ(ツマミ)です。

6.4.2 LFO制御 ロータリーエンコーダー

選択されたプリセット音色のLFOデプスと周波数(レイト)をコントロールします。

6.4.3 キー・パラメーター ロータリーエンコーダー

4つの“キーパラメーター” ロータリーエンコーダーは、プリセット毎に定められた様々なパラメーターをコントロールし、音色に変化を与えます。

6.4.4 エフェクト・ミックス・ ロータリーエンコーダー

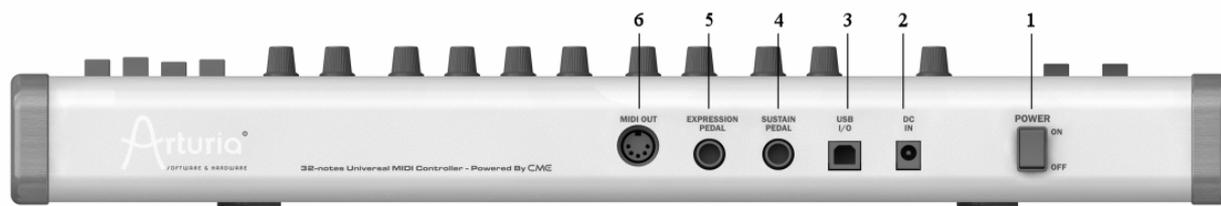
2つの‘FX Mix’ ロータリーエンコーダーはコーラスとディレイエフェクトのバランスを調整します。左へ回すとドライの割合が増え、右へ回すとエフェクトの量が増えます。

6.4.5 スライダー

前面パネルの右側にある4つのスライダーは、VCAエンベロープジェネレーターをコントロールします。A,D,S,Rと書かれたそれぞれは、順にアタックタイム、ディケイタイム、サステインレベル、リリースタイムを調節します。

6.5 アナログ・ファクトリー・キーボード リアパネルの概観

アナログ・ファクトリー・キーボード、リアパネルの概観 (左から右へ)



- 1) 電源 オン/オフ スイッチ
- 2) DC入力端子 DC アダプター: 12V DC 1500mA 
- 3) USB 端子
- 4) サステイン・ペダル接続端子
- 5) エクスプレッション・ペダル接続端子
- 6) MIDIアウト

アナログ・ファクトリー・キーボードのセットアップは簡単で速やかです。まずプログラム・ソフトウェアをインストールし (チャプター2 インストール参照)、パッケージから取り出したキーボードをコンピューターに接続するだけです。アナログ・ファクトリー・キーボードはUSBバス・パワーに対応しています。一本のUSBケーブルで繋ぐのみで全ての接続は完了です。

もし、ACアダプターの使用を望まれるのなら、12Vのアダプターを背面の端子に接続して下さい。

 ACアダプターは同梱されていません。サードパーティ製のアダプターをご使用になる前に、互換性を確認して下さい。詳しくは仕様についての説明を御覧下さい

アナログ・ファクトリー・キーボードをお使いのコンピュータで機能させるために、特別なドライバーをインストールする必要はありません。プラグ&プレイに対応しているため、アナログ・ファクトリー・キーボードを接続した際、ドライバは自動的にインストールされます。

6.5.1 MIDI 接続について

アナログ・ファクトリー・キーボードは、USBを経由してMIDIの送受信をおこなうだけでなく、MIDIインターフェースとしても機能します。背面パネルのMIDI出力端子から、音源モジュール、シンセサイザー、シークエンサー、ドラムマシンなど他のMIDI機器に信号を送信し、各機器をコントロールすることが出来ます。

6.5.2 パワーサプライ

アナログ・ファクトリー・キーボードはUSBバスパワーを使用しますが、必要であればACアダプターを使用して電源を供給することも可能です。その場合は 12VDC1500mA (中央がプラス) のアダプターを使用して下さい。⊖—●—⊕

アダプターは背面パネルの端子に接続します。

注意! : ACアダプターは同梱されていません。サードパーティ製のアダプターをご使用になる前に、互換性を確認して下さい。詳しくは仕様についての説明を御覧下さい。

6.6 アナログ・ファクトリー・キーボードの基本MIDI操作

アナログ・ファクトリー2.5 の全パラメーターは、ハードウェア・キーボードによってコントロール出来ます。ソフトウェアを起動し、キーボードを接続すれば、マウスやコンピュータのキーボードを使わずに、完全にコントロールすることが出来ます。

7 MIDI インプリメンテーション

7.1 キーボードの使い方

アナログ・ファクトリー・キーボードはアナログ・ファクトリー2.5 のコントローラとしてだけでなく、スタンダードなMIDIコントローラー・キーボードとしても使用出来ます。この後に続く情報は、このキーボードを使って、アナログ・ファクトリー2.5 以外のソフトウェア音源や、MIDI音源を演奏するために役に立つでしょう。

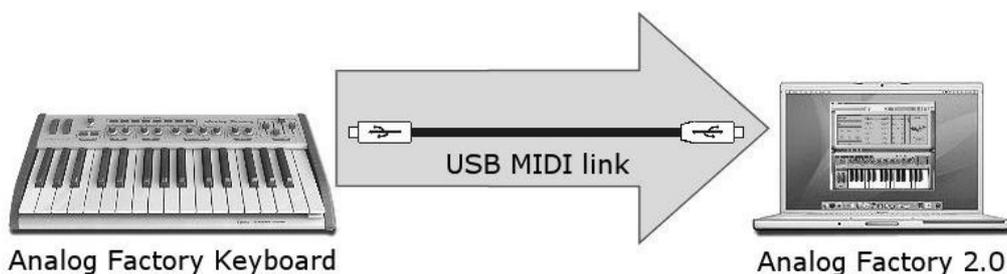
7.2 MIDIとは？

MIDIとは (Musical Instrument Digital Interface)

の略語で電子楽器やコンピューターと演奏データをやり取りするための、世界的な規格です。

MIDIは異なる電子楽器間でのデータのやり取りを可能にしました。送信側でなされたことは、そのまま受信側に伝わります。例えば、アナログ・ファクトリー・キーボードでCの音を演奏したとします。その時のキーのオン/オフやペロシティ (キーを叩く強弱) 情報などは、MIDIを通じて、受信側の楽器やコンピューターに送られ、受信側はその通りに反応します。

言い方を変えれば、MIDIは電子楽器同士会話するための言語であると言えます。



MIDIは標準的に、シンセサイザーやMIDI音源モジュールにあらかじめアサインされた 127 個のパラメーターを持っています。

MIDIの個別情報 ”SYSEXもしくははシステム・ エクスクルーシブ・ メッセージ”もシンセサイザーや MIDI音源モジュールの各パラメーターをコントロールするために使用することが出来ます。

7.3 MIDI インプリメンテーション・チャート

Arturia Analog Factory Experience USB Midi Master Keyboard

Model : AFE32

Version : 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1	1~16	
	Changed	1~16	1~16	
Mode	Default			
	Messages			
	Altered			
Note Number		0~127	X	
	True Voice	*****		
Velocity	Note On	0 v=0~127	X	
	Note Off	0	X	
After Touch	Key's	X	X	
	Channel	0	X	
Pitch bend		0	X	
Control Change		0 v=0~127	X	
Program change		X	X	
System Exclusive		0	0	
System common	Song position	X	X	
	Song select	X	X	
	Tune request	X	X	
System Real time	Clock	X	X	
	Commands	X	X	
Aux Messages	Local on/off	X	X	
	All notes off	X	X	
	Active sensing	X	X	
	System reset	X	X	

7.4 MIDIコントローラー・リスト

Item id	Description	CC number	Value
0x01	Filter Cutoff	74	0..127
0x02	Filter Reso	71	0..127
0x03	LFO Rate	76	0..127
0x04	LFO Amount	77	0..127
0x05	Key param 1	18	0..127
0x06	Key param 2	19	0..127
0x07	Key param 3	16	0..127
0x08	Key param 4	17	0..127
0x09	Fx Chorus	93	0..127
0x0A	Fx Delay	91	0..127
0x0B	Envelope Attack	73	0..127
0x0C	Envelope Decay	75	0..127
0x0D	Envelope Sustain	79	0..127
0x0E	Envelope Release	72	0..127
0x10	Preset down	20	0 or 127
0x11	Preset Up	21	0 or 127
0x12	Recall snap 1	22	0 or 127
0x13	Recall snap 2	23	0 or 127
0x14	Recall snap 3	24	0 or 127
0x15	Recall snap 4	25	0 or 127
0x16	Recall snap 5	26	0 or 127
0x17	Recall snap6	27	0 or 127
0x18	Recall snap 7	28	0 or 127
0x19	Recall snap 8	29	0 or 127
0x22	Save snap 1	104	0 or 127
0x23	Save snap 2	105	0 or 127
0x24	Save snap 3	106	0 or 127
0x25	Save snap 4	107	0 or 127
0x26	Save snap 5	108	0 or 127
0x27	Save snap 6	109	0 or 127
0x28	Save snap 7	110	0 or 127
0x29	Save snap 8	111	0 or 127
0x30	Volume	7	0..127
0x31	Search	112	+/- 1
0x32	Select	113	0 or 127
0x40	Modulation wheel	1	0..127
0x50	Sustain pedal	64	0 or 127
0x51	Exp pedal	11	0..127

7.5 システム・エクスクルーシブ・メッセージ詳細

Sysex	Description	T	R
F000206B02 0101 nn F7	Item config request nn:item		0
F000206B02 0102 nn cc F7	Item config response cc:cc number	0	
F000206B02 0103 nn cc F7	Item config Set		0
F000206B02 0201 nn F7	Item value request nn:item(0x01 to 0x0A)		0
F000206B02 0202 nn vv F7	Item value response vv: value	0	
F000206B02 0203 nn vv F7	Item value set		0
F000206B02 0301 F7	Midi channel request		0
F000206B02 0302 0c F7	Midi channel response c: midi channel(0 to F)	0	
F000206B02 0303 0c F7	Midi channel set		0
F000206B02 0401 F7	Octave shift request		0
F000206B02 0402 ss F7	Octave shift reponse ss: octave shift (-3 to 3)	0	
F000206B02 0402 ss F7	Octave shift set		0
F000206B02 0501 F7	velo curve request		0
F000206B02 0502 nn F7	velo curve response nn: curve index	0	
F000206B02 0503 nn F7	velo curve set		0
F000206B02 0601 F7	aft-touch curve request		0
F000206B02 0602 nn F7	aft-touch curve response nn: curve index	0	
F000206B02 0603 nn F7	aft-touche curve set		0
F000206B02 0701 F7	acc mode request		0
F000206B02 0702 nn F7	acc mode response nn: mode index	0	
F000206B02 0703 nn F7	acc mode set		0
F000206B02 0801 nn F7	led state request nn:item 0x63 to 0x6A		0
F000206B02 0802 nn 0v F7	led state response vv: value (0 or 1)	0	
F000206B02 0803 nn 0v F7	led state set		0
F000206B02 0901 nn F7	global param. request nn:parameter		0
F000206B02 0902 nn 0v F7	global param. response vv: value (0 or 1)	0	
F000206B02 0903 nn 0v F7	global param. set		0

Values that could be negative are coded this way:

Absolute value is coded on the 6 less significant bits

Sign is coded on the 7th bit.

Global parameters:

2 Relative mode (1: absolute, 127: relative)

8 MIDI コントロールセンター (ANALOG FACTORY EXPERIENCE のみ)

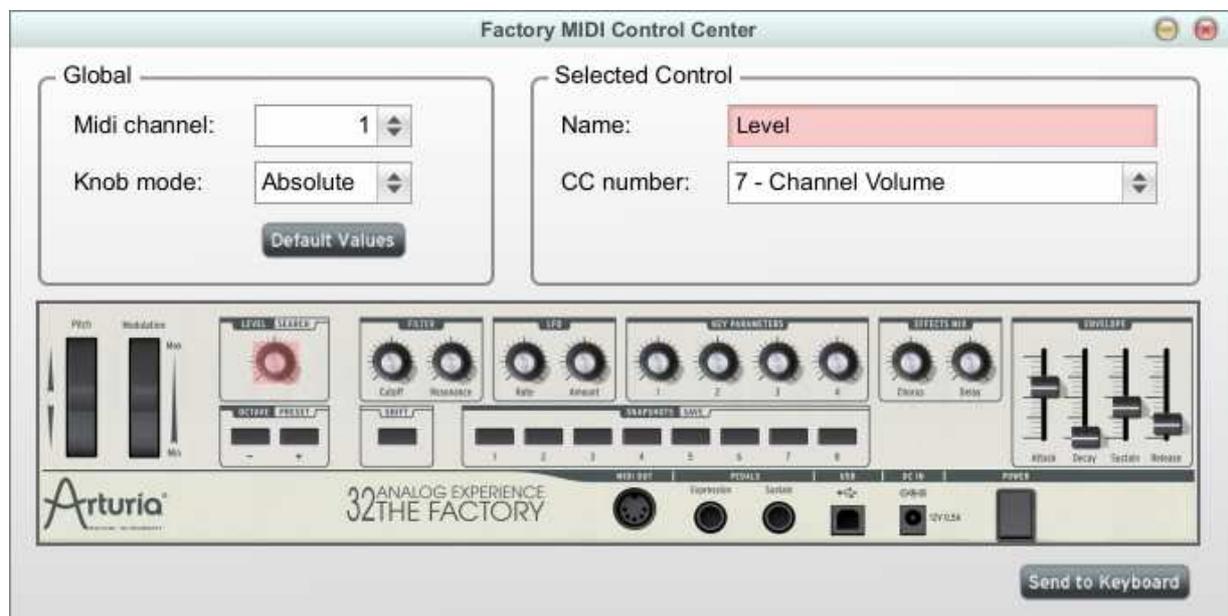
MIDIコントロールセンターは、Analog ExperienceキーボードのMIDIセッティングを記憶させるのに使用するユーティリティです。

このユーティリティはAnalog Experience 2.5 と同じフォルダにあります。

8.1 MIDIコントロールセンターを起動する

MIDIコントロールセンターを起動する前に、Arturia Analog Experienceキーボードがコンピューターに接続していることを確認してください。

MIDIコントロールセンター・ユーティリティは自動的にキーボードを見つけ、現在の設定をロードします。



一番上のセクションではキーボードセッティングをエディットすることが可能です。

下のセクションは、Arturia Analog Experienceキーボードを操作する実際の要素を表し、どのコントロールがセットアップされるかを選択するのに使用されます。

8.2 MIDIセッティングを変更する

8.2.1 グローバルセッティング

グローバルセッティングとして (すべてのキーボードに対して) 設定できる項目は以下のとおりです。

：

- MIDIチャンネル：** キーボードがすべてのMIDIイベントを送信するために使用するMIDIチャンネル。
- ノブモード：** 絶対的 (Analog Factoryのデフォルトモード、ノブは絶対値を送ります) または相対的 (Analog Factoryとは動作せず、63 以下は負の値で 65 以上は正の値を送信します)
- デフォルトの値：** このボタンを押すことによってキーボードのすべての工場出荷時セッティングを再ロードします。

8.2.2 個々のコントロールセッティング

キーボードで特定のコントロールを行うために使用するMIDI CC (コントロールチェンジ) を設定します。：

- ▶ 任意のコントローラーをクリックすると、選択されたコントローラーは赤く強調されます。そのセッティングは「Selected Control」セクションに自動的に表示されます。
- ▶ ドロップダウンリストで任意のラインを選ぶことでこのコントロールに割り当てられるCCナンバーを変更することが可能です。



8.2.3 キーボードにセッティングを保存する。

「Send to Keyboard」ボタンを押すまで、ユーティリティで行われた変更はキーボードに保存されません。

全体の設定を保存する準備ができたなら「Send to Keyboard」ボタンを押してください。

9 ご使用の前に必ずお読みください。

9.1 アートリア “アナログ・ファクトリー” エンドユーザー使用許諾契約書

1 使用許諾

アートリア社はお客様に対し、非独占的な権利として単一のコンピュータで“アナログ・ファクトリー”のプログラム（以下“ソフトウェア”という）を使用する権利を与えます。また、アートリア社は許諾者に非明示的に付与した権利のすべてを留保します。

2 所有権

お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリア社はディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

3 著作権

ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は堅く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

4 使用の制限

お客様は、常に1台のコンピュータで使用することを前提として、一時的に別のコンピュータにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピュータに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、翻訳などをおこなうことはできません。

5 譲渡の制限

お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しにおこなうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。

限定保証と免責

限定保証アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。

す。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より 30 日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

賠償

アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か 30 日間のどちらか長いほうになります。

その他の保証の免責

上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

付随する損害補償の制限

アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害 (仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む) について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

9.2 FCC INFORMATION (USA)

1. **Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!**

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

2. **IMPORTANT:** When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

3. **NOTE:** This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:
- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
 - Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
 - In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
 - If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply ONLY to those products distributed in the USA.

9.3 CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

9.4 EUROPE

 This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC